

グリーンインフラを活用した魅力ある地域創出 のあり方検討会

第一回検討会
令和8年8月24日

本資料の目次

#	議事	項目
1	1. 本検討会の目的について	1.グリーンインフラ（以下、GI）とは
2		2.これまでのGIに関する検討経緯
3		3.政府の地方創生戦略におけるGIの位置づけ
4		4.GI政策の現在地
5		5.地方創生の核となる基礎自治体におけるGIの現状
6		6.自治体向けガイドライン整備の必要性
7		7.ガイドライン整備の必要性（自治体におけるGIの現在地）
8		8.本検討会の目的
9		9.本検討会の目的（ガイドラインの成果案）
10	2. GIを活用した魅力ある地域の姿とは	1.本日まで意見を頂戴したい事項 主な論点
11		2.地方創生2.0の概要
		3.グリーンインフラの効果
12		4.地方創生とGIの関係性の整理
14		5.地方創生×GIを実現している事例
15		6.GIを活用した魅力ある地域 実現の流れ(仮説)・絵姿（仮説）
16		7.魅力ある地域を実現する取組の要素（仮説）
17		8.GIと対象エリアの考え方
18	3. 今後の予定について	1.全体スケジュール
19		2.次回検討会の議論事項（案）
20	参考資料	1.GI推進戦略2030
21		2.GIに期待される効果
22		3.地域未来戦略
23		4.現時点仮説 自治体における取り組み方の分類
24		取組プロセスごとのポイント
25		5.現時点の検討状況 デスクトップ調査
26		ヒアリング

検討会の構成員

構成員

本検討会の 構成員

氏名 ※五十音順・敬称略	所属
欠塚 剛志	いなべ市 都市整備部 新産業創造課 兼 都市整備課
金井 司	三井住友信託銀行株式会社 サステナビリティ推進部 シニアアドバイザー
佐藤 留美	NPO法人Green Connection TOKYO 代表理事、 NPO法人NPO birth事務局長
松崎 光弘	株式会社エーゼログループ地域創発研究所所長、 総務省地域力創造アドバイザー
村上 暁信	筑波大学 システム情報系 教授

1.本検討会の目的について

1-1. グリーンインフラとは

- グリーンインフラ（以下、GI）とは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの
- これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる

グリーン

自然の多様な機能



心身のリラックス



景観形成



雨水貯留・浸透



緑陰形成



CO2の吸収



生息地保全

インフラ

国土、都市、地域づくり



まちづくり



公園



河川



道路

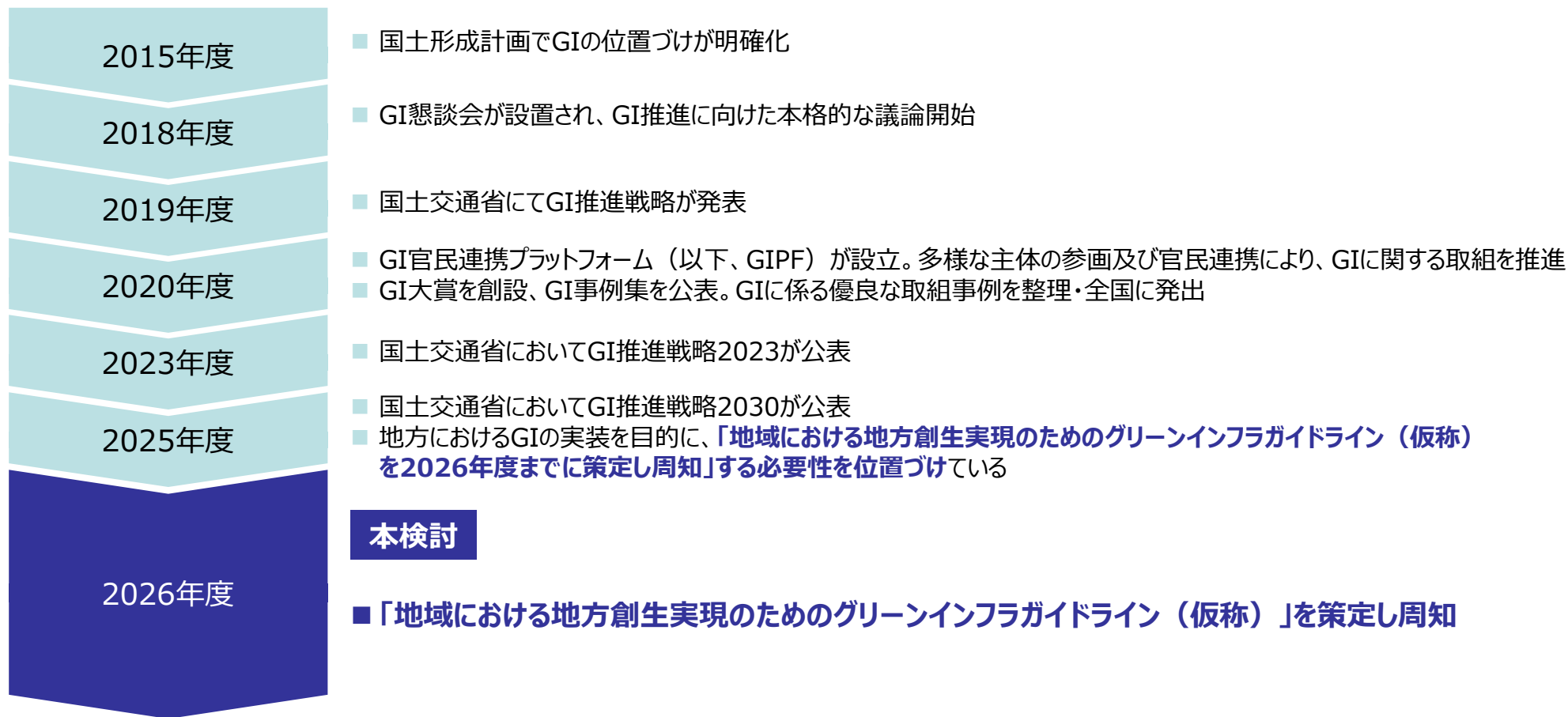


港湾

1-2.これまでのGIに関する検討経緯

- これまで国土交通省は、GIの実行計画に位置付けられる「GI推進戦略」のもと、各種施策を推進してきた
- **GI推進戦略2030**においては、地方創生の取組を行う自治体への財政的・技術的な支援や「まち・ひと・しごと総合戦略」等に基づいた、地方におけるGIの実装を目的に、「地域における地方創生実現のためのグリーンインフラガイドライン（仮称）を2026年度までに策定し周知」する必要性を位置づけている

国土交通省にて実施してきたGI政策



1-3.政府の地方創生戦略におけるGIの位置づけ

- 2025年12月に閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」のうち、**地域資源の高付加価値化の取組の強化手法・地域の暮らしの満足感向上手法の一つとしてそれぞれ「GIの活用」が記載されている**
- また、上記戦略を更新する形で2026年7月に閣議決定された「地域未来戦略」においても、**持続可能なまちづくり手法として「自然資本を核としたネイチャーポジティブな地域づくり」が位置付けられている**

	目指す姿	政府目標	GIに関連する箇所	
地方創生に関する総合戦略 ^{*1}	「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る	①強い経済	箇所	A.地域における高付加価値型産業創出 a. 地域資源の活用促進 （1）地域資源の高付加価値化の取組の強化 ⑪自然資本を核としたネイチャーポジティブな地域づくり
		②豊かな生活環境	本文	“ グリーンインフラ の活用促進（中略）等を通じ、地域の生活や産業の基盤となる「自然資本を核としたネイチャーポジティブな地域づくり」を、関係府省庁、地方公共団体、民間企業等のネットワークにより強力に推し進める”
		③選ばれる地方	箇所	D.地域の暮らしの満足感向上 （13）気候変動に対応した快適な暮らし空間の確保
	まち・ひと・しごと創生法に基づき更新		本文	“自然環境の多様な機能を有する グリーンインフラ の活用やまちづくりGXの取組を進め、気候変動対策と健康でゆとりある魅力的な地域づくりを推進する。”
地域未来戦略 ^{*2}	日々の暮らしと未来への不安を希望へと変え、「日本列島を、強く豊かに」する	①強い地域経済の構築		—
		②豊かな生活環境の実現	箇所	ウ. 地域の暮らしの満足感向上 n. 持続可能なまちづくり （5）豊かな自然環境・自然景観づくりの推進
		③選ばれる地方の実現	本文	“①自然資本を核とした ネイチャーポジティブ な地域づくり”

^{*1} 地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～、https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/chiikimirai/pdf/20251223_honbun.pdfより引用

^{*2} 地域未来戦略、https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/chiikimirai/pdf/20260721_honbun.pdfより引用

1-4.GI政策の現在地

- これまで国土交通省では、GIの活用手法に関するノウハウの横展開を中心に取組を進めてきており、主に環境・防災分野での活用が進んでいる。
- 一方で、更なる取組の裾野拡大には、GIの多様な効果も踏まえ、自治体の主要な政策目的である地方創生や魅力的な地域創出との関係性や、地域全体でGIを活用した魅力ある地域創出に資する事業化手法までは十分に示されていない

GIに関する既存施策（抜粋）



GI実践ガイド
(個別GI事業の類型やポイントを説明)



GI大賞
(GIの特に優良な取組を表彰)



GI事例集
(GIの優良な取組を取りまとめ掲載)



GI技術集
(GIに活用可能な技術を整理)



GI支援制度集
(GI事業に活用可能な補助金・支援制度等を整理)



GIに関するファイナンスガイドライン（中間とりまとめ）
(GI事業に活用可能な資金調達手法を整理)

今後の課題

✓ GIと地方創生との関係性や、GIを地域全体で活用することで魅力ある地域創出を実現するための手法を明らかにすることが課題

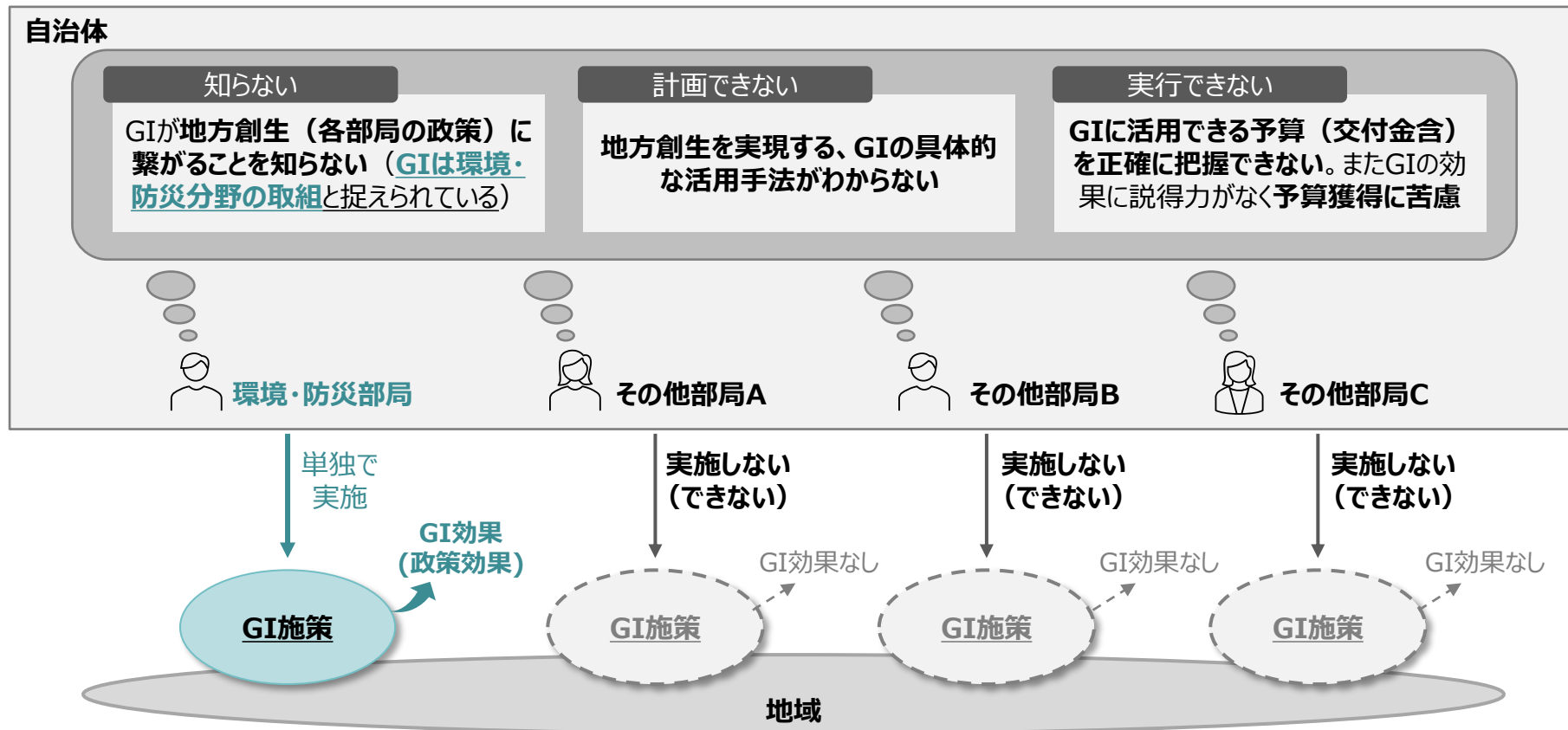
1-5.地方創生の核となる基礎自治体におけるGIの現状

- GIの実施主体は公共から民間、住民まで多様であるが、特に自治体による取組強化が重要である
- GIは多くの部局で活用可能な手段である一方で、環境・防災分野の取組と認識されがちであり、GIの多様な効果も踏まえた、地方創生や魅力ある地域創出との関係性や具体的な活用手法が十分に共有されていない

GIの活用に係る地域の現状

- ✓ 本来、GIは地方創生に寄与する政策として様々な部局が活用できるが、そのような認識や活用手法が浸透していない
- ✓ その結果、各部局は個別で政策を実施するもGIを政策に活用していない（環境・防災部局の政策にGIが一部活用されている状況）

自治体

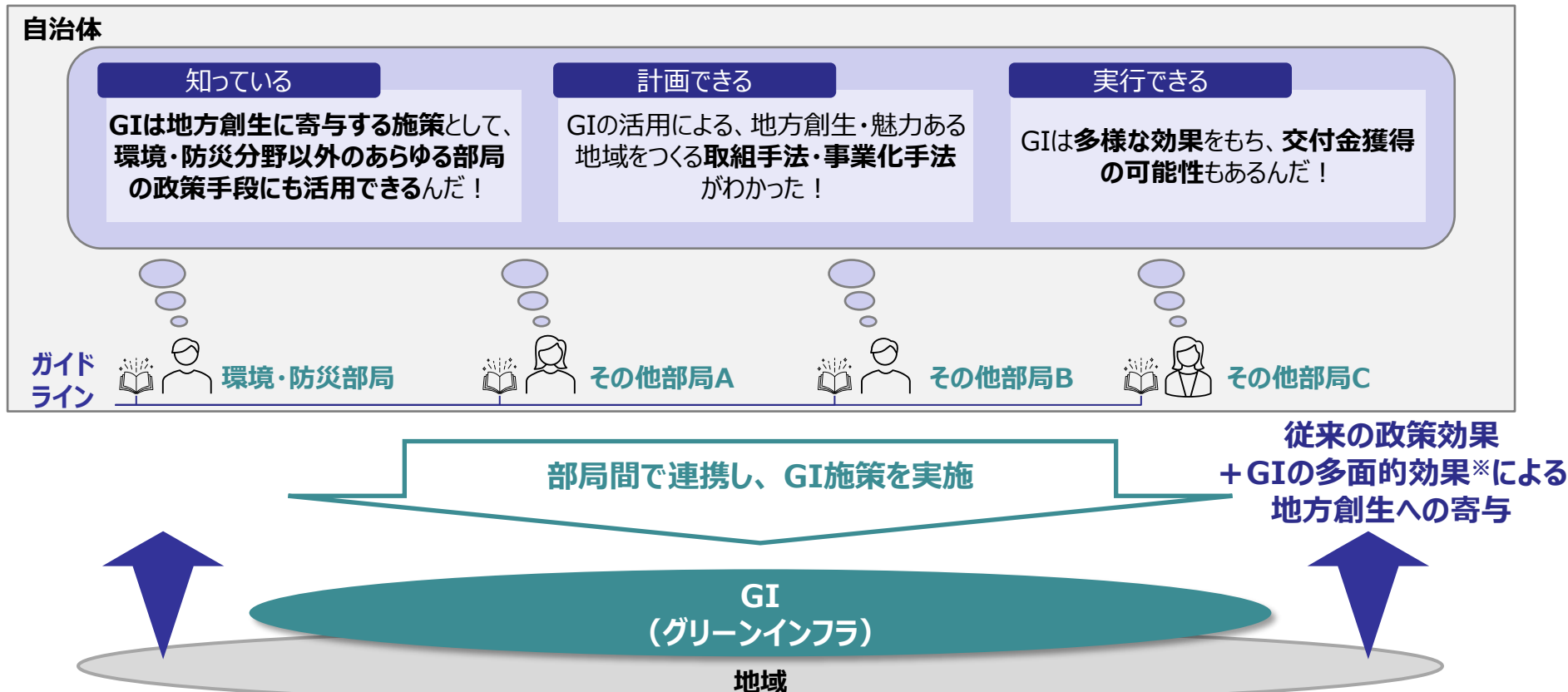


1-6.自治体向けガイドライン整備の必要性

- 地域全体でのGIの活用を促進するには、**GIの多様な効果も踏まえ、GIの活用が地方創生や魅力ある地域創出につながることを明確に示す**必要がある
- これと同時に、自治体内における**GIの活用に係る阻害要因（制度・予算・人材）を特定の上で、これらを解消し、財源確保を含めた事業化のプロセスを支援する**ような、**国側でのガイドライン整備**が求められる

本ガイドラインを活用した地域の姿

- ✓ ガイドラインにより、**GIと地方創生の関係性や、GIを活用した地方創生の具体的手法を整理、自治体職員に広く普及**させる
- ✓ その結果、**自治体は各部局間で連携し、地方創生に資する形でGI施策を実施、地域全体で魅力ある地域作りを推進**する

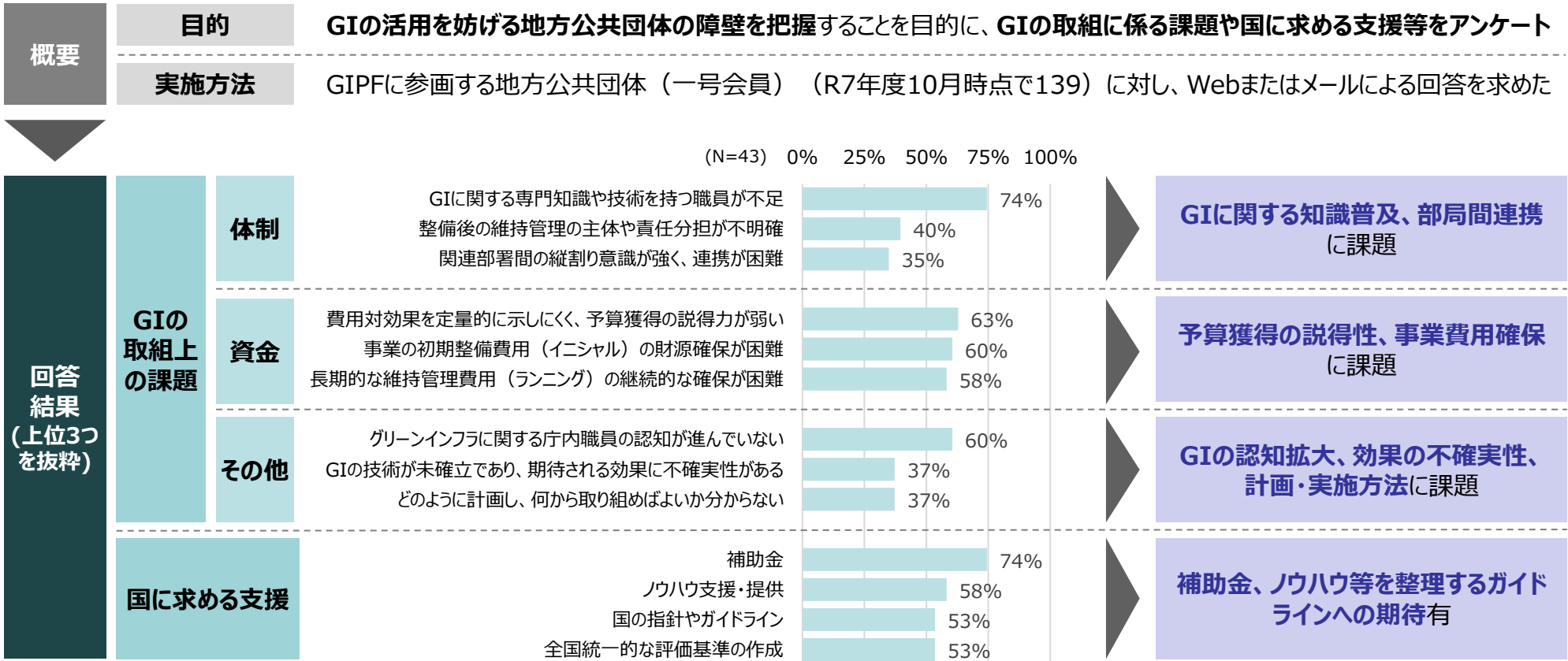


※強靱な国土・防災、コミュニティや安らぎの提供、経済的効果等

1-7.ガイドライン整備の必要性(自治体におけるGIの現在地)

- 地方自治体がGIの取組を実施する上での課題として、**専門性確保・部局間連携等の体制構築、事業予算の確保等の資金調達、庁内のGI認知拡大等**があることが自治体対象のアンケートからも判明している
- また、地方自治体は国に対し、**補助金制度・ノウハウの提供拡充や、国が指針を定めるガイドライン**を求めていることも明らかとなっている

アンケート実施概要・結果（抜粋）



自治体によるGIの活用に係る阻害要因として、体制構築・資金確保・認知拡大等が挙げられている。
また、国に対し、補助金・ノウハウ等の提供拡充や、国の指針を示すガイドラインの発出が求められている。

1-8.本検討会の目的

- 本ガイドラインでは、自治体の環境・防災分野以外も含めた、地方創生に関わる様々な担当者に「地方創生の手段としてGIを認知し活用してもらう」ことを目的とする
- そのために、GIが地方創生や魅力的な地域創出に貢献することとの関係性を明らかにした上で、地域特性を踏まえた全体最適解を導く計画手法や財源確保、多様なステークホルダーとの連携手法も含む具体的な事業化手法の整理を行う

本検討会の目的

自治体の環境・防災分野以外も含めた様々な部署・担当者が、GIを地方創生の手段として活用し地方創生・魅力ある地域創出を実現するためのガイドラインを策定する

①意義の整理



GIが地方創生や魅力的な地域創出に貢献することとの関係性を明らかにする

②手法の整理



自治体に取り組むことができる、具体的な事業化手法の整理を行う

- ✓ 取組プロセス、取組手法
- ✓ 地域特性を踏まえた計画手法
- ✓ 自治体による財源確保
- ✓ 多様なステークホルダーとの連携 等

③全国への普及



上記①②を、自治体の地方創生に関わる多様な部署・担当者に認知し、活用してもらう

- ✓ GIと直接の関係性が強い、都市・環境等の部署を超えて、さらに普及・拡大を促進
- ✓ 企画、産業振興、教育、子育て、福祉等の自治体担当者への認知拡大を目指す

※本ガイドラインは基礎自治体単位の実施の推進を主目的に、地方創生や魅力的な地域創出に貢献することとの関係性や事業化手法の整理を行うことを目的としており、自治体間の広域連携や流域単位の実施については重要な観点としてコラム欄に掲載すること等を今後検討

1-9.本検討会の目的(ガイドラインの成果案)

- 本ガイドラインの策定を通じて、自治体に対してGIが魅力的な地域創出に貢献することの「認知」を広げ、部局連携等による「事業化」を推進し、「財源（交付金等）活用」を促すことを想定している
- ゆえにGI推進戦略2030の関連KPIを「GIPF地方公共団体会員のうち予算を投じて事業化した割合の増加」と設定した

ガイドライン策定を通じ、自治体に促す行動変容（案）

行動変容の内容

①認知拡大



- GIが地方創生や魅力的な地域創出に貢献することを自治体に認知

②事業化の推進



- 複数部局との連携・共同を通じた自治体による事業化の推進

③財源（交付金等）活用



- 交付金等を活用し、GIを組み込んだ事業を自治体が新規に立ち上げ

自治体にもたらされる変化

As-Is

- ・ 都市・環境関連のインフラ事業としてGIに関する事業が推進されている
- ・ そのため、GIの地域全体への広がりが限定的となり、地方創生に資するGIも少ない

To-Be

- ・ GIの思想が反映された地方創生事業が全国で多数行われる

それを踏まえた「GI推進戦略」2030との関係性



「GI推進戦略
2030」との
関連性

関連する
KPI

関連する
施策等

- GIPF地方公共団体会員のうち予算を投じて事業化した割合の増加

- 「5. 地域経済の活性化」に関する施策の推進
（※副次的に他の社会課題の解決にも寄与）

2.GIを活用した魅力ある地域の姿 とは

2-1.本日まで意見を頂戴したい事項

- 本ガイドラインが目指す方向性について、**①GIと地方創生の関係性**、**②GIを活用した魅力ある地域創出が実現している具体例**、**③GIを活用した魅力ある地域の絵姿・要件**についてご意見を頂戴したい

本日まで意見を頂戴したい事項

<p>本ガイドラインが 目指す 方向性</p> <p>»»»</p>	<p>①GIと地方創生の関係性</p>	<p>■ GIの活用により地方創生の政策目的をどのように達成するのか、その関係性についてご意見をお願いします</p> <p>詳細p.16-18</p>
	<p>②GIを活用した魅力ある地域が実現している具体例</p>	<p>■ 「GIを活用した魅力ある地域」に関して、他に参考とすべき事例やその事例と地方創生の関係性、優れた点等についてご意見をお願いします</p> <p>詳細p.19-20</p>
	<p>③GIを活用した魅力ある地域の姿（仮説）</p>	<p>■ 「GIを活用した魅力ある地域の姿」に関して、①地域のGIの状態、②地域の暮らしの状態、③多分野の連携の状態、④地域主体の関係性、⑤発現される効果、⑤地域の将来像(持続的な住民の関わり方等)についてご意見をお願いします</p> <p>詳細p.21-23</p>

2-2.地方創生2.0の概要

- 地方創生2.0（内閣官房地域未来戦略本部事務局）では、「**くらしの安心**」「**付加価値創出**」「**人や企業を各地に**」「**新技術の活用**」「**新・広域連携**」の5本の柱に沿った政策を強く展開していくことを目指している

地方創生2.0

政策の5本柱

地方創生2.0では、その目指す姿である「新しい日本・楽しい日本」をつくり出していくため、次の5本の柱に沿った政策を力強く展開していきます。



くらしの安心

安心して働き、暮らせる
地方の生活環境の創生



付加価値創出

稼ぐ力を高め、付加価値創出型の
新しい地方経済の創生
地方イノベーション創生構想



人や企業を各地に

人や企業の地方分散
産官学の地方移転、
都市と地方の交流等による創生



新技術の活用

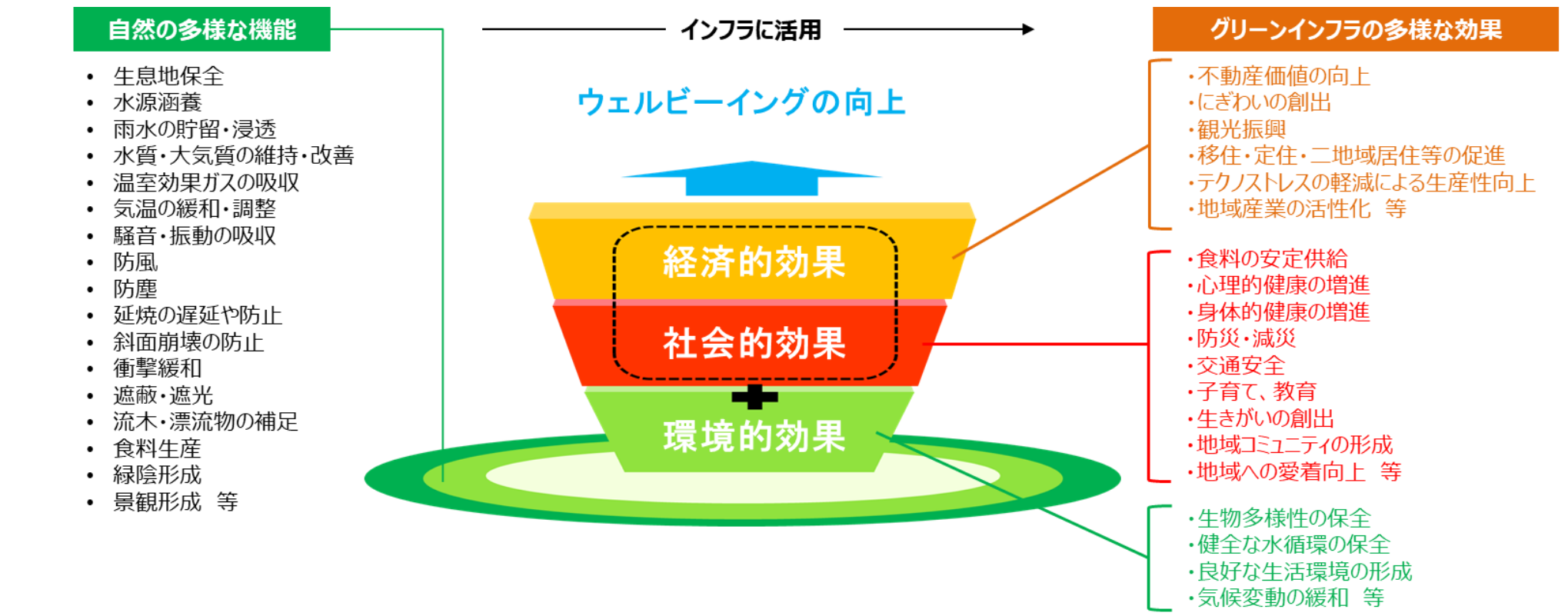
新時代のインフラ整備とAI・
デジタルなどの新技術の徹底活用



新・広域連携

広域
リージョン
連携

2-3.グリーンインフラの効果



環境的効果（例）

人間を取り巻く生活環境を支える効果



良好な生活環境の形成

気候変動の緩和

社会的効果（例）

人間の安心安全かつ健康的な社会活動を支える効果



健康の増進

防災・減災

経済的効果（例）

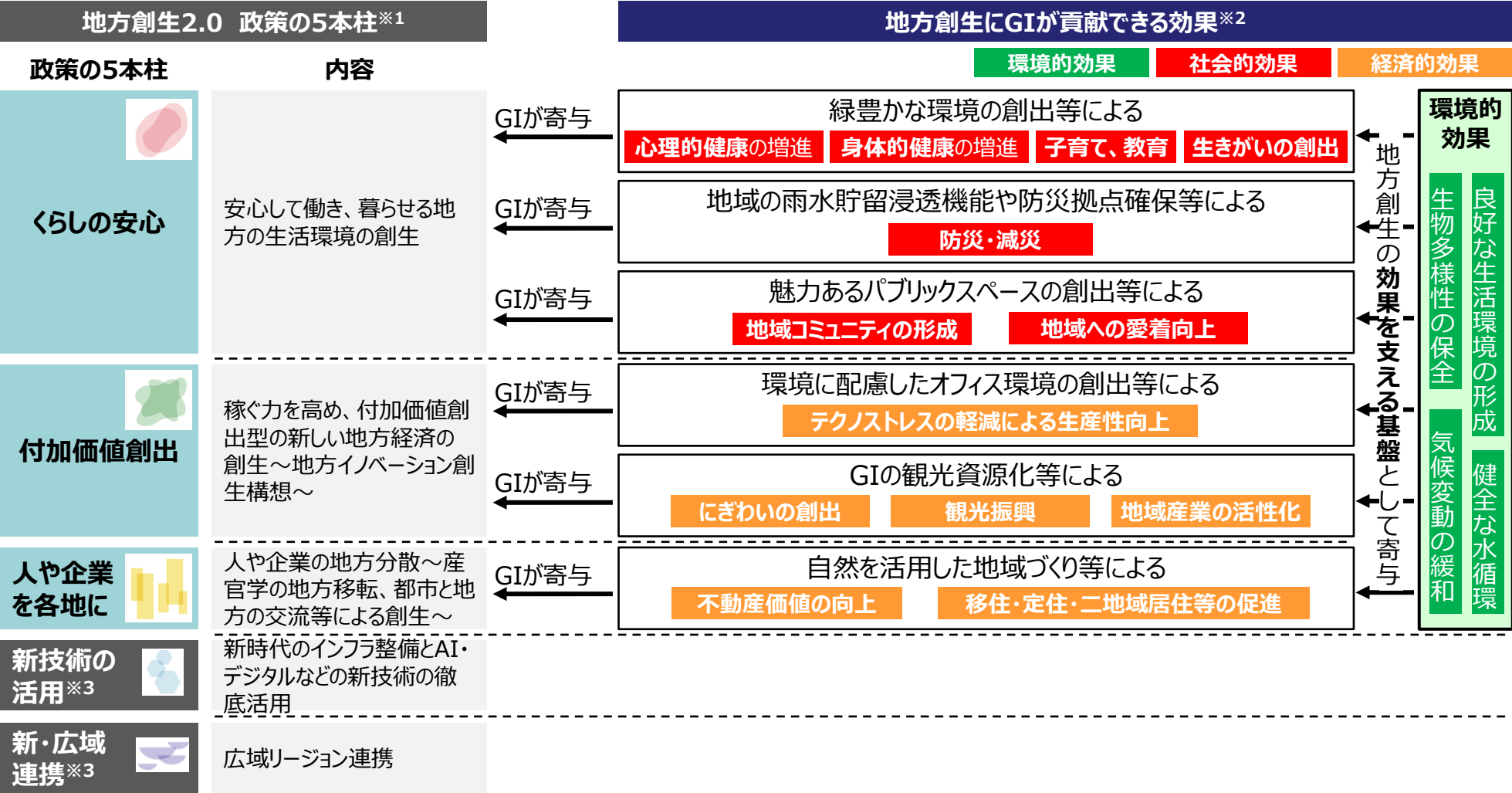
人間の経済活動に資する効果



にぎわいの創出

不動産価値の向上

■ 地方創生2.0の実現にGIは寄与する。GIによる①健康、子育て・教育、②防災・減災、③コミュニティ形成は「くらしの安心」を、④生産性向上、⑤観光・産業振興は「付加価値創出」を、⑥移住・定住等促進は「人や企業を各地に」を実現する



※1：地方創生2.0（内閣官房地域未来戦略本部事務局）より引用、2026/8/6、[地方創生2.0](#) ※2：グリーンインフラ推進戦略2030（国土交通省）より抽出、2026/8/6、[001978321.pdf](#) ※3：「GIが寄与する地方創生2.0の五本柱」の対象外としたが、取組における重要な観点としてガイドラインに掲載することも今後検討

- 地方創生につながるGIの取組はこれまで、「GIの取組」と意識されていないものも含めて各地で行われている
- たとえば都市部エリアでは「小田急線上部利用施設等のGIの取組み（東京都世田谷区）」が事例として存在する

小田急線上部利用施設等のGIの取組み（東京都世田谷区）

事例概要

- 小田急小田原線の地下化に伴い、線路跡地を活用して防災・減災・みどりの機能が充実した魅力ある街づくりを目指してきた
- 線路跡地には多様な植栽や広場を設け、住民や鉄道事業者と連携して地域に親しまれる連続したみどりの空間・人の流れを創出
- 住民参加での植栽の維持管理やイベントが実施されるとともに、商業施設等（テナント）を誘致しエリア一体のにぎわいを創出

取組前後の写真



地域住民による花壇づくり



駅間の通路に連続したみどり



GIによってさまざま生み出される価値のうち、特に地方創生に寄与していると想定される価値

心理的健康の増進

身体的健康の増進

生きがいの創出

防災・減災

地域コミュニティの形成

地域への愛着向上

にぎわいの創出

観光振興

不動産価値の向上

- 地方創生につながるGIの取組はこれまで、「GIの取組」と意識されていないものも含めて各地で行われている
- たとえば郊外部・農山漁村部エリアでは「コウノトリと共に生きるまちづくり（兵庫県豊岡市）」が事例として存在する

コウノトリと共に生きるまちづくり（兵庫県豊岡市）

事例概要

- 豊岡市は兵庫県とともに、人々になじみ深いコウノトリの絶滅を防ぐべく、1950年代半ばから保護活動に取り組み
- 無農薬・減農薬米を生産する「コウノトリ育む農法」の普及と、同農法で作られた「コウノトリ育むお米」の販路拡大に着手
- あわせてコウノトリを活用した環境教育等、コミュニティ形成やにぎわい創出にも寄与。「コウノトリ野生復帰」を通じて人と自然が共生

コウノトリ育む農法を実践する田んぼとコウノトリ



水田ビオトープを活用した小学生の環境学習



コウノトリを育む農法による水稲作付面積(ha)の推移



GIによってさまざま生み出される価値のうち、特に地方創生に寄与していると想定される価値

心理的健康の増進

身体的健康の増進

子育て、教育

生きがいの創出

地域コミュニティの形成

地域への愛着向上

にぎわいの創出

観光振興

地域産業の活性化

2-6.GIを活用した魅力ある地域 実現の流れ(仮説)

ご意見を頂戴
したい事項③

- 先述の事例等を踏まえ、本ガイドラインではGIが「地方創生」に寄与する地域の絵姿（＝魅力ある地域）の創出を目指す
- GIを活用した魅力ある地域の流れは、大きく「地方創生を目的としたGIの活用」「地方創生に寄与する効果の発揮」「部局間連携による効果の最大化」「魅力ある地域(地方創生)の実現」「持続可能な国土の構築」を想定している

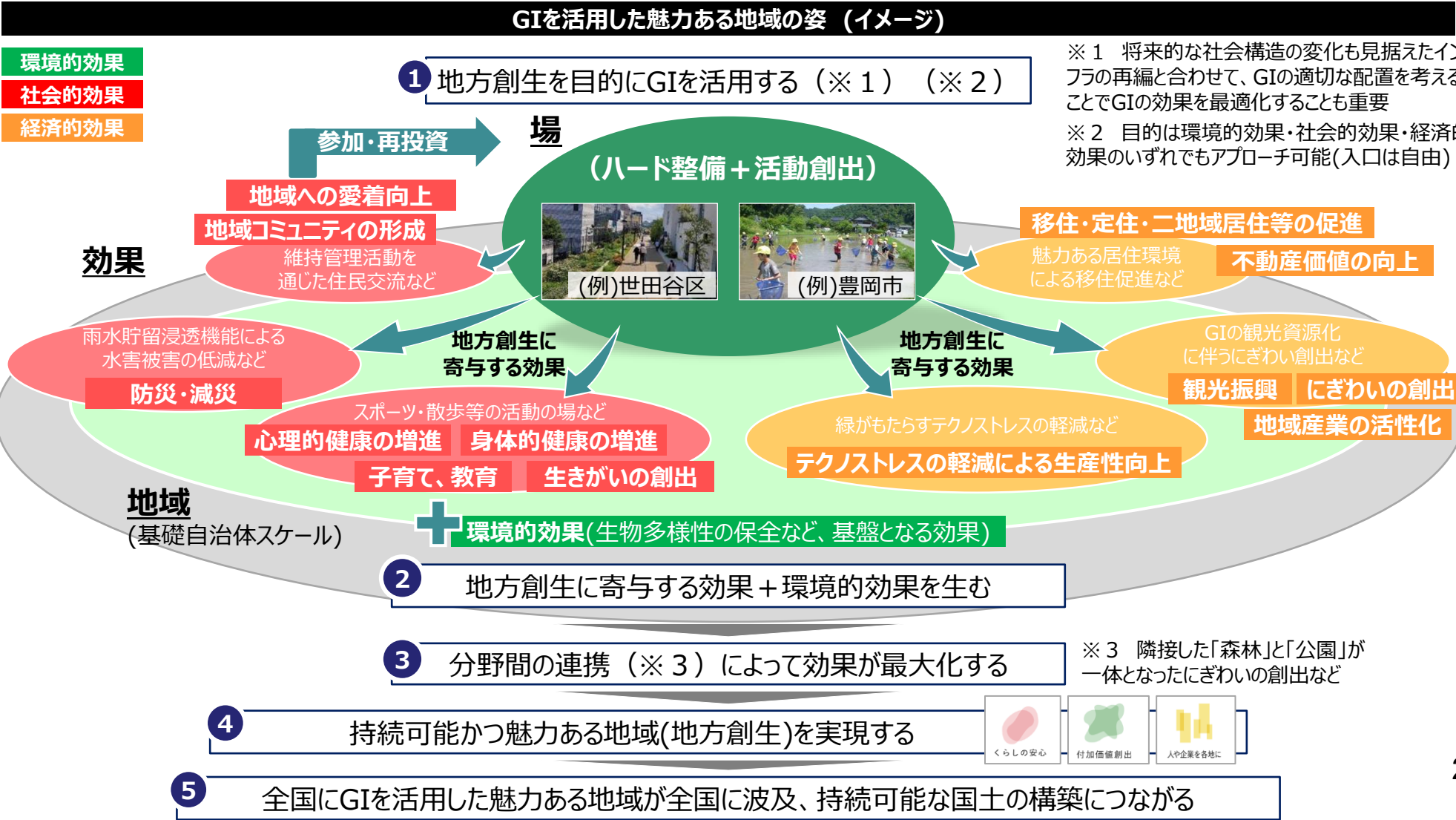
実現の流れ

内容

- 1 地方創生を目的に、関連部署・担当者が連携してGIの場をつくる
- 2 地方創生に寄与する効果
+ 環境的効果(副次的効果)を生む
- 3 分野間の連携によって
効果が最大化する
- 4 持続可能かつ魅力ある
地域(地方創生)を実現する
- 5 全国にGIを活用した魅力ある
地域が全国に波及、持続可能な
国土の構築につながる

- 地方創生を目的として、関連する部署・担当者が連携してGIの場を整備・活用する
- 暮らし(場)が変化し、地方創生に寄与するGIの効果（社会・経済的効果等）が発現する。副次的に、環境的効果も発現する
- 多分野で連携して取組を行うことで、GIの効果・地方創生の効果が最大化する（部局単体で行う以上の効果を得る）
- 住民・民間はGI・地域に愛着を持ち、場への参加・再投資がなされる。結果、持続可能かつ魅力ある地域(地方創生)を実現する
※基礎自治体スケール
- GIの取組の裾野が拡大し、各地域でGIを活用した魅力ある地域が実現することによって、持続可能な国土の構築につながる

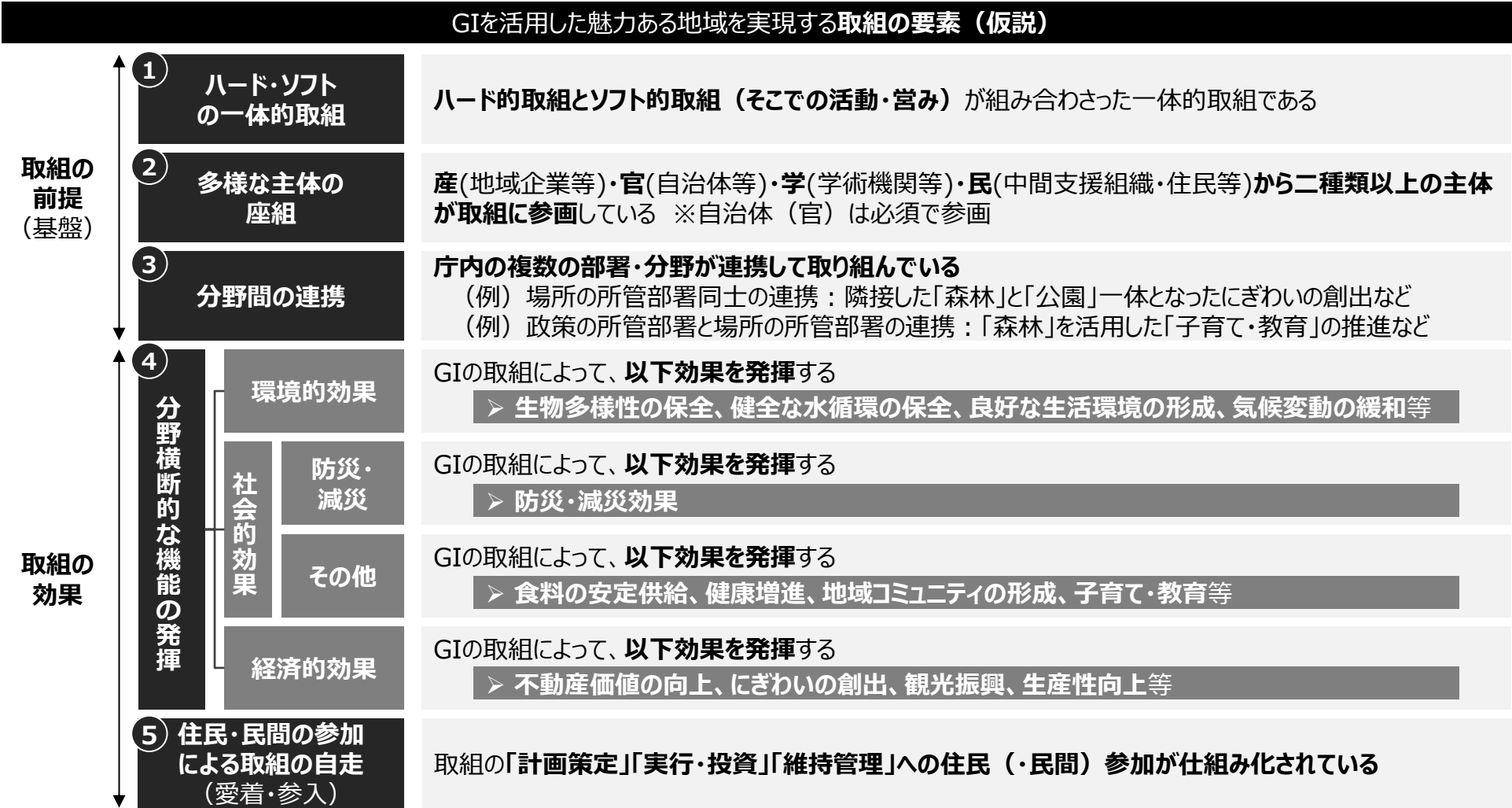
■ 本ガイドラインは前頁で示した「地方創生を目的としたGIの活用」「地方創生に寄与する効果の発揮」「部局間連携による効果の最大化」「魅力ある地域(地方創生)の実現」「持続可能な国土の構築」の流れを実現する地域を創出することを目指す



2-7.魅力ある地域を実現する取組の要素(仮説)

ご意見を頂戴したい
事項③

- GIを活用した魅力ある地域を実現する取組の要素として、ハード+ソフト（そこでの活動・営み） 一体的な取組に多様な主体が参画し、分野横断的（環境、社会、経済）に効果を発揮し、取組の「計画策定」「実行・投資」「維持管理」への住民参加が仕組み化されていることと整理できる



2-8.GIと対象エリアの考え方

- GIはエリアの特性や求める便益を踏まえて取り組むことで、都市部/郊外部/農山漁村部いずれも活用可能な考え方である
- なお本ガイドラインはどのような場所でも適用できるガイドラインとして、各エリアの自治体で活用できることを前提としている

エリア分類		都市部	郊外部	農山漁村部
概要		都市的な土地利用 (宅地、道路等) が主のエリア	都市的な土地利用と 自然的な土地利用が共存するエリア	自然的な土地利用 (農地、森林等) が主のエリア
GI実装の考え方	GIに利用できる土地	宅地・道路等が土地の多くを占めるため、GIの機能を発揮できる土地は限定的 (GIを利用できる土地は小さい)	低未利用地や公園等が分散、GIの機能を発揮できる土地が一定存在 (GIを利用できる土地は都市部と農山漁村部の中間)	土地の多くを占める農地・森林等は、適切に保全・管理することでそれ自体がGIの機能を発揮 (GIを利用できる土地は大さい)
	GI実装の方向性	自然環境（緑、水辺、都市農地等）の創出・管理、活用、等	(既にある) 自然環境の適切な保全・管理、再生、活用、等	
主な効果とその対象		活動する人々（働き手・利用客等）のWell-being（ストレス軽減、集中力向上等）の向上	住民の住環境の改善 (Well-being・コミュニティ形成、流域治水・生態系ネットワーク構築等)	エリアを単位とした、一体的な災害に強い地域の創出、産業の振興等
エリアとGIのイメージ		 品川シーズンテラス（東京都港区）	 にぎわいの森（三重県いなべ市）	 円山川流域（兵庫県豊岡市）

※（出典）グリーンインフラ事例集（令和7年3月）、[R6 グリーンインフラ事例集.pdf](#)

3. 今後の予定について

3-1.全体スケジュール

- 検討会は全3回を予定。第2回を10月中下旬、第3回を12月中下旬に実施し、1月下旬にはガイドラインを取り纏め予定
- 第2回検討会では主に「財源確保含む具体的な事業化手法の整理」について、第3回検討会では主に「自治体への普及・実装方策」を議論させていただきたい



主な検討会アジェンダ	会合	第1回検討会	第2回検討会	第3回検討会
	時期 (想定)	8/24 (月)	10月中旬～下旬	12月中旬～下旬
	主な 議論事項	<ul style="list-style-type: none">■ 開催の背景 本日実施 検討会の議論項目■ GIと地方創生・魅力的な地域創出の関係性整理・モデル化	<ol style="list-style-type: none">1. 前回意見の整理・反映2. 自治体による財源確保を含む具体的な事業化手法の整理 <div>主論点</div>	<ol style="list-style-type: none">1. 前回意見の整理・反映2. とりまとめ（案）の作成3. 上記成果を踏まえた自治体への普及・実装方策の整理 <div>主論点</div>

3-2.次回検討会の議論事項(案)

- 第2回検討会の議論事項「財源確保含む具体的な事業化手法の整理」の具体的な内容は、「自治体における取り組み方の分類」「取組プロセスごとのポイント」「ポイントのガイドラインへの反映の仕方」を想定している
- 議論事項について、さらに検討すべき論点がございましたらご意見頂戴できますと幸いです

第2回検討会

議論事項 (詳細)

1. 前回意見の整理・反映
2. 自治体による財源確保を含む具体的な事業化手法の整理
 - A) 自治体における取り組み方の分類
 - B) 取組プロセスごとのポイント ※以下、ポイントの例（現時点仮説）
 - "政策課題の手段"としてGIが認識されている
 - （大規模な取組の場合）“庁内の取り纏め部局”が取組をリードしている
 - 関連部局で"連携"し、取組が推進される
 - “活用可能な予算（交付金含む）”を漏れなく認識・活用している
 - 他分野連携を仲介する中間支援組織が存在する
 - 地域企業を巻き込んだ取組になっている
 - ...
 - C) ポイントのガイドラインへの反映の仕方

議論事項について、さらに検討すべき論点がございましたらご意見頂戴できますと幸いです

參考資料

参考-1.グリーンインフラ推進戦略2030

■ 令和8年1月、国土交通省はグリーンインフラ（以下、GI）の実装の進展や国内外の動向などを踏まえた実行計画として「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定した。本実行計画は2030年までとし、「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、2050 年に向けて「自然共生社会」の実現を目指す

2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画として新たに「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定。本戦略の計画期間を2030年度までとし、定義や効果、特徴等を整理した上で国土交通省の取組を体系的に整理し2030年度までに目指す成果を設定。

グリーンインフラの定義・効果

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

自然の多様な機能

- ・ 生息地保全
- ・ 水源涵養
- ・ 雨水の貯留浸透
- ・ 水質・大気質の維持・改善
- ・ 温室効果ガスの吸収
- ・ 気温の緩和・調整
- ・ 騒音・振動の吸収
- ・ 防風
- ・ 防塵
- ・ 延焼の遅延や防止
- ・ 斜面崩壊の防止
- ・ 衝撃緩和
- ・ 遮光・遮光
- ・ 流木・漂流物の補足
- ・ 食料生産
- ・ 緑陰形成
- ・ 景観形成 等

インフラに活用

ウェルビーイングの向上

経済的効果

社会的効果

環境的効果

グリーンインフラの多様な効果

- ・ 不動産価値の向上
- ・ にぎわいの創出
- ・ 観光振興
- ・ 移住・定住・二地域居住等の促進
- ・ テクノストレスの軽減による生産性向上
- ・ 地域産業の活性化 等
- ・ 食料の安定供給
- ・ 心理的健康の増進
- ・ 身体的健康の増進
- ・ 防災・減災
- ・ 交通安全
- ・ 子育て、教育
- ・ 生きがいの創出
- ・ 地域コミュニティの形成
- ・ 地域への愛着向上 等
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 健全な水循環の保全
- ・ 良好な生活環境の形成
- ・ 気候変動の緩和 等

戦略的な計画

持続的な維持管理

幅広いステークホルダー

生物多様性の保全

良好な生活環境

避難場所・防災拠点

暑熱対策

雨水貯留浸透

魅力的な景観

コミュニティ形成

不動産価値の向上

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、2050年に向けて「自然共生社会」の実現を目指す。

グリーンインフラの更なる実装に向けた分野横断的な環境整備

①国民的な機運・理解の醸成 ②多様な効果の見える化 ③官民の取組を促進する環境整備 ④資金調達の手円滑化 ⑤新技術・DXの活用 ⑥国際展開

グリーンインフラ

自然と共に創る社会インフラ

EXPO 2027

GREEN×EXPO 2027

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装

①持続的で快適な都市・生活空間の形成 ②防災・減災 ③暑熱対策 ④生物多様性の確保 ⑤地域経済の活性化 ⑥温室効果ガスの削減 ⑦循環型社会の形成

都市緑化・道路緑化

流域治水との連携

ブルーインフラ

参考-2.GIに期待される効果

■ GIは環境・社会・経済の多面的効果を有し、7つの社会課題への対応が期待されている。

1. 持続的で快適な都市・生活空間の形成

- ・高齢者、障害者、子ども、子育て世代など、全ての人が安全・安心で不自由なく生活できる暮らしやすい都市・生活空間の実現
- ・健全な水循環の維持又は回復
- ・食料の安定供給・農林水産業の持続的発展と地球環境の両立
- ・地域特有の歴史、生活、文化の継承



2. 防災・減災

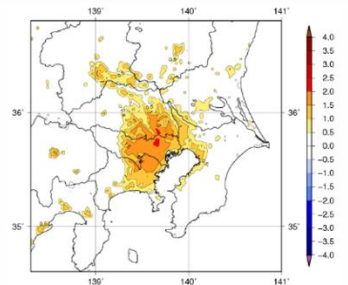
- ・災害に対する国全体の強靱性（レジリエンス）の向上
- ・複合災害を想定した有効な事前防災の推進
- ・ハード・ソフトが一体となった「気候変動適応策」の推進
- ・流域全体であらゆる関係者が協働して取り組む「流域総合水管理」の推進



岡山県倉敷市(平成30年)

3. 暑熱対策

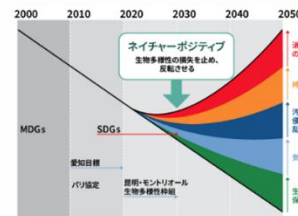
- ・熱中症による被害やヒートアイランド現象の防止
- ・極端な高温の発生時における暑さを避ける場の利用促進等の熱中症対策
- ・ヒートアイランド対策や都市の暑熱対策



都市化の影響による平均気温の変化

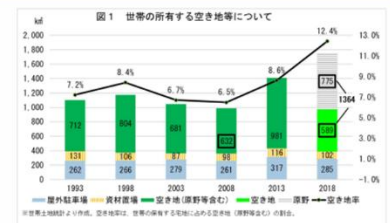
4. 生物多様性の確保

- ・2030年ネイチャーポジティブ
生物多様性の損失を止め、
反転させる
- ・自然を活用した社会課題の解決の推進
- ・国内外の企業や投資家における生物多様性の保全に対する関心の高まり



5. 地域経済の活性化

- ・国際的な潮流を踏まえた都市再生
- ・民間の消費・投資を喚起するまちづくりの推進
- ・土地の適正な利用・管理の確保
- ・人や企業の地方分散の推進



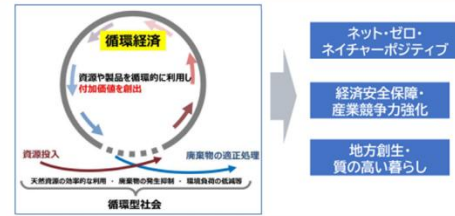
6. 温室効果ガスの削減

- ・2050年カーボンニュートラルの実現
- ・環境・経済・社会の統合的向上に資する地球温暖化対策の推進
- ・国土交通GXの推進



7. 循環型社会の形成

- ・環境への負荷ができる限り低減される循環型社会の形成
- ・資源を巡る経済安全保障上のリスクの増大
- ・経済社会システムの循環型への転換

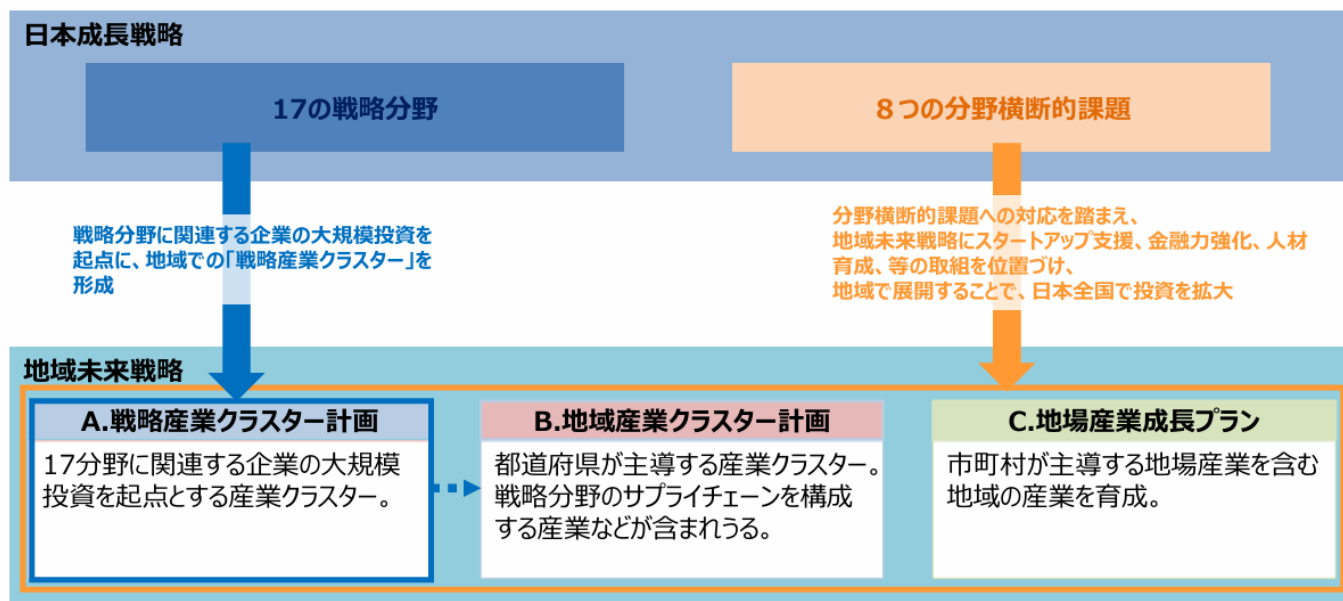


参考-3.地域未来戦略

- 令和8年7月、「地域未来戦略」（内閣府）が打ち出された。地方の大きな伸び代である多様で魅力ある地域資源を最大限に活用し、地場産業を含む地域の産業、地域経済の持続的な成長を図っていくこと等が目指されている。

地域未来戦略と日本成長戦略との関係性

- ・地域未来戦略は、『「強く豊かな日本」投資枠』も活用して強力に推進。
- ・日本成長戦略における17の戦略分野に関連する企業の大規模投資を起点とする「戦略産業クラスター計画」にて、サプライチェーンを支える企業群の投資促進、関連インフラや拠点整備、人材育成などを、大胆かつ計画的に推進。
- ・あわせて、地域未来戦略では、「地域産業クラスター計画」や「地場産業成長プラン」における地域を牽引する産業や地場産業の投資促進など、大胆かつ計画的に支援。
- ・日本成長戦略の「8つの分野横断的課題への対応」を踏まえ、地域未来戦略にスタートアップ支援、地域金融力強化、人材育成等の取組を位置づけ、地域で展開することで、日本全国に投資を拡大。

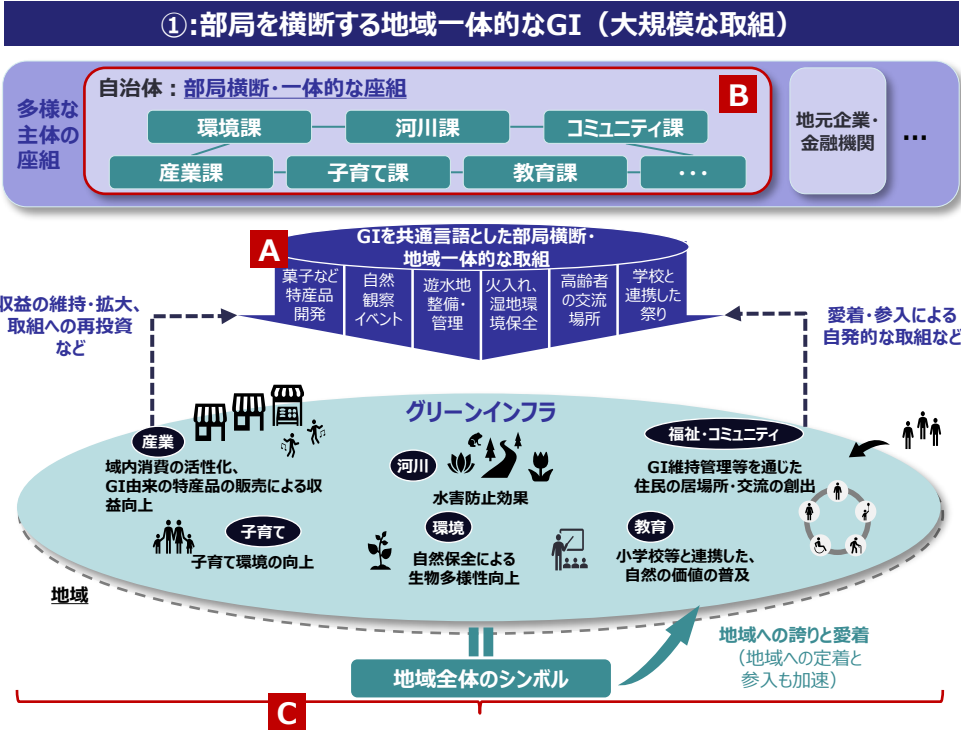
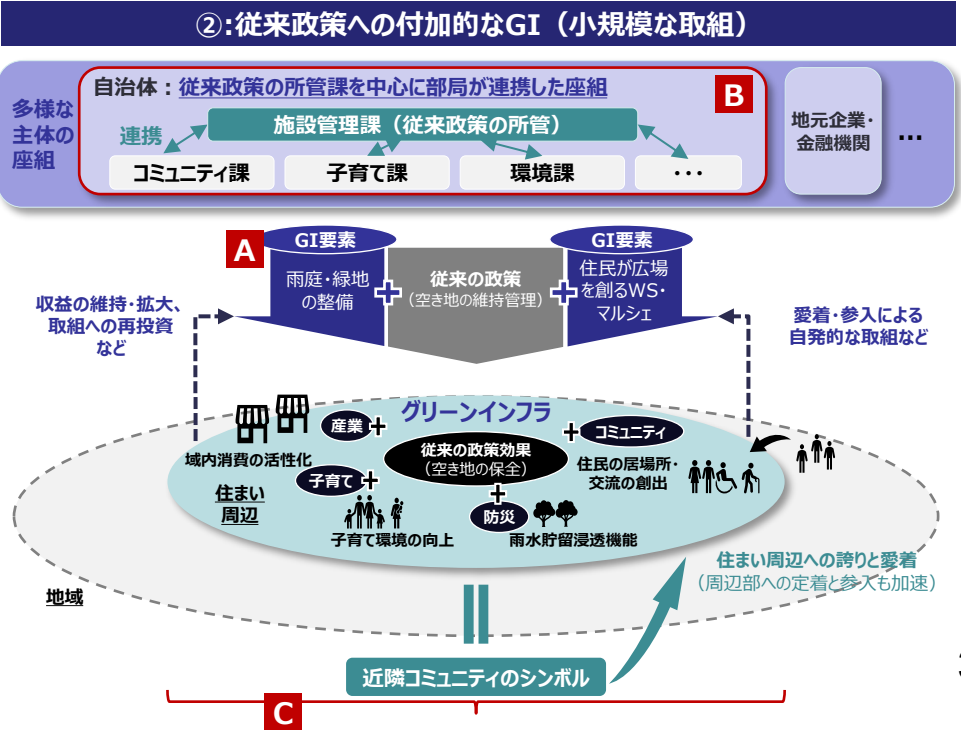


参考-4.現時点仮説_自治体における取り組み方の分類

■ GIの取り組み方は、取組の考え方や効果の規模によって①大規模な取組と②小規模な取組に分類されると整理した

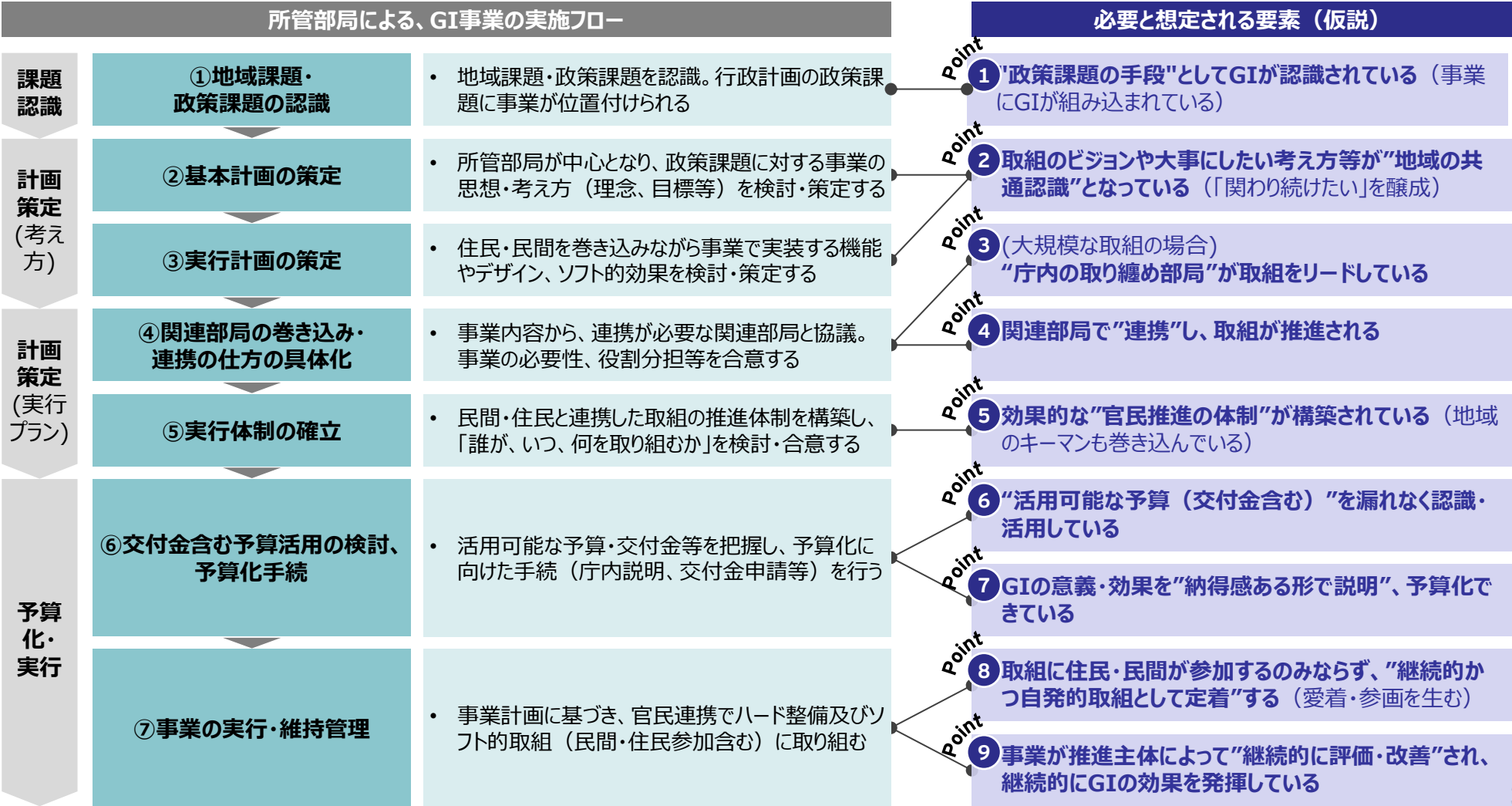
①大規模な取組/小規模な取組のちがい

	①：部局を横断する地域一体的なGI（大規模な取組）	②：従来政策への付加的なGI（小規模な取組）
A 取組概要	■ GIを共通言語とした 部局横断・地域一体的な取組	■ 従来やるはずの政策にGI要素を付加
B 座組	■ 部局横断的・一体的な座組	■ 従来政策の所管課を中心に各 部局が連携した座組
C 取組の効果	■ 分野横断的なGI効果が 大規模（地域単位） に波及 ■ GIは 地域全体のシンボル となる	■ 分野横断的なGI効果が 小規模（住まい周辺単位） に波及 ■ GIは 近隣コミュニティのシンボル となる



参考-4.現時点仮説_取組プロセスごとのポイント

■ デスクトップ調査を踏まえ、取組に必要とされる要素（仮説）について「政策課題の手段としてGIが認識されている」「取組のビジョンや大事にしたい考え方等が”地域の共通認識”となっている」等9つを仮説として抽出した



※自治体ヒアリング、検討会を踏まえブラッシュアップ

- 事例参照においては、GIに関する「地域の収益向上を見据えた持続可能な地域づくり」に関する国内事例を主に参照する
- 事例抽出においては、取組手法の前提である①インフラ整備・ソフト事業の一体的取組、②多様な主体の参画、③分野横断的な機能の発揮、④住民・民間の参加による取組の自走を満たす事例を抽出

事例調査のプロセス

(1) 事例参照

国内事例調査

- 以下2つの「**地域の収益向上を見据えた**持続可能な地域づくり」に関する事例（かつ、自治体向けの事例）を対象にデスクトップ調査を実施する
 - ① GIと題される事例集
 - ② GIと題されないが、GIが含まれる事例集

(2) 事例抽出

- ガイドラインで導くべき**取組手法の前提である①インフラ整備・ソフト事業の一体的取組、②多様な主体の参画、③分野横断的な機能の発揮、④住民・民間の参加による取組の自走を満たす事例を抽出**

①インフラ整備・ソフト
事業の一体的取組

②多様な主体の
座組

③分野横断的な
機能の発揮

④住民・民間の参加
による取組の自走

(3) とりまとめ

- 抽出した事例について、自治体の各部局が自分ごとと捉えられるよう「政策課題・地域課題」ごとにとりまとめる

■ デスクトップ調査の調査対象は、「GIと題される事例集」「GIと題されないが、GIが含まれる事例集」から調査する

調査対象（国内事例）					
#	分類	事例カテゴリ	発行元	資料	調査状況
1	GIと題される事例集	全般	国土交通省	グリーンインフラ実践ガイド（令和 5 年 1 0 月）	済
2			GI官民連携PF	グリーンインフラ事例集（令和 7 年 3 月版）・（令和 6 年 3 月版）	済
3	GIと題されないが、GIが含まれる事例集		内閣府	地域活性化モデルケース報告書（令和 2 年 3 月）	済
4			内閣府	デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生推進タイプ°（令和 6 年 8 月）	済
5			内閣府	第 2 世代交付金交付対象事業の概要（令和 6 補正・令和 7 当初）	済
6			内閣府	地方創生交付金 採択事例集（令和7年12月）	済
7			観光庁	サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりに向けた事例集（令和 5 年）	済
8			全国町村会	町村の施策事例集IX	済
9			中心市街地活性化センター	まちづくり事例（さまざまな市街地活性化課題解決のヒント）	済
10	都市・公園/河川（観光産業）	都市・公園/河川（観光産業）	国土交通省	官民連携まちづくりによる ウォークアブル空間の形成に関する事例集	済
11			国土交通省	使われ活きる公園実践のヒント	済
12			国土交通省	かわまち大賞（かわまちづくり事例）	済
13	農地/山林（農林業）	農地/山林（農林業）	農林水産省	「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」事例集 （令和 7 年）	済
14			農林水産省	荒廃農地解消の優良事例集～荒廃農地再生の取組～（令和 7 年 3 月）	済
15		その他	内閣府	「地方創生×ネイチャーポジティブの推進に向けたモデル支援事業」事例	済

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
1	住宅地・商業地	にぎわいの森を核とした賑わい創出（三重県いなべ市）	<ul style="list-style-type: none">➢ 新庁舎整備に際して、いなべ特有の地域資源を都市住民に訴求するコンテンツ創出や場所づくりとして以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">➢ 「雨庭」を中央に整備したほか、「築山」や「ビオトープ」など、植物や生きものの生育に適した環境も整備（ハード）➢ 放棄林を活かしたまちづくり商業施設整備（ハード）➢ 地域資源を都会的な文脈でプロモーションし販売促進（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">➢ ②機能・③経済：ウェルビーイング（良好な景観形成による心身の健康に寄与）、脱炭素（植栽・森林による炭素固定）、防災（雨水貯留浸透機能）、賑わい創出（市の観光入込客数が倍増）➢ ④愛着：新たな地域事業者や地域住民が主体・主役となるイベント実施や商品開発が開始	
2	住宅地・商業地	ブランチ神戸学園都市（兵庫県神戸市）	<ul style="list-style-type: none">➢ 商業施設周辺の宅地開発の影響を緩和するため以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">➢ 在来種の植樹（ハード）➢ 自然保護活動を通じて、自治会・NPO等と交流を実施（ソフト）➢ 施設内にある小規模保育の子供たちと在来種の種の植え付けを実施（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">➢ ②機能・④愛着：NP（在来種の生息地確保）、地域コミュニティ活性化（自然保護活動を通じたコミュニティの組成）➢ ③経済：植樹・環境学習を目的とする来訪により、商業施設の収益向上も見込まれる（明確に施設の来訪者が増加したソースはない）	
3	住宅地・商業地	ALFALINK流山（千葉県流山市）	<ul style="list-style-type: none">➢ 物流施設にて周辺の自然環境を再現・生物の生息地を確保するため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">➢ 全棟で約18万本の植樹を行い、敷地の20%を緑化（ハード）➢ 開発時に設置した調整池をビオトープとして活用（ハード）➢ 施設内の共用部を一般開放し、各種イベントを開催（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">➢ ②機能・④愛着：NP（渡り鳥の生息地確保等）、景観（建物による斜面樹林と周辺の田園風景の景観的な繋がりを保持）、防災（雨水供給設備、物資提供等の災害時のライフライン確保）➢ ③経済：イベント開催による来訪者増加、また企業の入居・雇用確保	
4	住宅地・商業地	武蔵野クリーンセンター（東京都武蔵野市）	<ul style="list-style-type: none">➢ 老朽化したクリーンセンターの建替えに伴い、一体的に以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">➢ 廃材のアップサイクルを活用した屋上緑化（ハード）➢ ベジタブルガーデン（屋上菜園）の設置（ハード）➢ レインガーデンを修景庭園としてデザイン・設置（ハード）➢ 市内の緑地から苗木を移植し交流広場の設置（ハード）	<ul style="list-style-type: none">➢ ②機能・③経済：農業振興（収穫した野菜のマルシェ販売）、教育（クリーンセンターの見学ルートに雨庭を組み込み）、地域コミュニティ（ベジタブルガーデン等での交流）、防災等（農地の多面的機能）➢ ④愛着：住民が交流を深めながら農作業体験できる機会創出	
5	道路空間	札幌大通公園（北海道札幌市）	<ul style="list-style-type: none">➢ もともと火防線として整備した道路を多目的に活用すべく以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">➢ 植栽、噴水等の設置等で統一的な空間デザイン（ハード）➢ 雨水浸透緑化（雨水浸透型花壇）の整備（ハード）➢ ボランティアによる花壇の継続的維持管理（ハード）➢ オープンスペースを活用した「さっぽろ雪まつり」等の開催（ソフト）➢ 美しい花壇づくりを行うコンクールを実施（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">➢ ②機能・③経済：地域コミュニティ活性化（様々なイベントを通じた地域住民・観光客等の交流促進）、景観・ウェルビーイング（美しい花壇による良好な景観の形成）、防災（火災の延焼防止、雨水貯留浸透機能による水害防止）➢ ④愛着：ボランティアの花壇整備への積極的参加	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
6	道路空間	おおはし里の杜(東京都目黒区)	<ul style="list-style-type: none">大橋JCT建設による環境影響の緩和のため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">目黒川周辺の原風景を再現する形で斜面林、草地、湧水等を整備(ハード)地域の小学生と稲作体験を実施(ソフト)親子を対象にした生物観察イベントを実施(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 : NP(多くの動植物の生息地を確保)、教育(多くの小学生が積極的に環境教育イベントに参加)③経済: 天空庭園にて栽培されるブドウを用いてワインを醸造、天空庭園の「収穫祭」にて頒布・販売を実施	
7	道路空間	高山西ICビオトープ(岐阜県)	<ul style="list-style-type: none">中部縦貫自動車道付近の環境整備のため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">飛騨高山高校と連携してビオトープの維持管理・調査を実施(ハード・ソフト)建設コンサルによる高校生への指導、適切な整備を導く(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 : NP(様々な種類の動植物の生息を確認)、教育(飛騨高山高校による維持管理・調査活動を通じた主体的な環境学習)③経済: 自治体が負うはずの維持管理コストの縮減	
8	道路空間	ガーデンシティ新横浜PJ(神奈川県横浜市)	<ul style="list-style-type: none">街なかの緑の少なさを解消すべく、道路に以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">レインガーデンを導入した植栽帯の拡大(ハード)民有地の緑化(壁面緑化等)(ハード)地域住民へのガーデニング講習、ワークショップ(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 : 賑わい・地域コミュニティ(ガーデニング講習やWS等を通じた交流、地元イベントとの連携)、健康・良好な生活環境(歩行に楽しみを創出)、防災(レインガーデンの雨水貯留機能)④愛着: 住民が自主的に植栽管理できる機会創出、養成	
9	道路空間	朝霞市シンボルロード(埼玉県朝霞市)	<ul style="list-style-type: none">米軍基地跡地をまちの賑わいの拠点へとするべく以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">ヤマザクラ等、地域の景観を特徴づけている樹木を保全(ハード)透水性舗装の歩道を整備(ハード)地元の店舗がならぶイベントの開催(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 : 地域コミュニティ活性化(シンボルロードにおけるイベント開催による来訪者増加)、NP(在来種の生息地確保) 防災(雨水貯留浸透機能)③経済: シンボルロードにおけるマーケットの開催等による収益向上	
10	公園・低未利用地	小田急線路街(東京都世田谷区)	<ul style="list-style-type: none">小田急線の線路跡地を活用し、地域の急速な商業化・宅地化による緑の不足、渋滞発生等の解決のため以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">線路街に連続的な緑地を整備(ハード)デザイン性があり、子供の遊び場にもなる雨庭の設置(ハード)住民の既存組織と植栽管理に関する検討を進め、住民組織の立ち上げと植栽管理の委託を実施(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能 : ウェルビーイング(緑豊かな憩いの空間による、ヒトへの癒しの提供)、地域コミュニティ活性化(地域住民の、GIの維持管理を通じたイベントへの継続的参加)、防災(雨庭の雨水貯留浸透機能)③経済: 出店や店舗を核とした賑わい創出、それによる収益の向上④愛着: 自ら雨庭をデザインする「グリーンインフラ学校」への住民の積極的な参加や、各家庭での実践	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
11	公園・低未利用地	安満遺跡公園を核とした遺跡保全と活用 (大阪府高槻市)	<ul style="list-style-type: none">大学施設の移転により生まれた空間の活用と、弥生時代の貴重な遺跡の保全の両立のため、以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">安満遺跡公園で活動する市民活動団体「安満人倶楽部」が発足、公園の保全・管理・活用に関する活動を実施 (ソフト)ハーフメイドエリアと位置づけ、市民の声を継続的に広げ、社会状況やニーズにあわせ柔軟に整備・改修を実施 (ハード)公園の雰囲気合ったカフェ・レストラン等の設置 (ハード)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着：文化振興(弥生時代の環濠集落の保全と活用)、地域コミュニティ活性化(維持管理活動等を通じた居場所・生きがいの創出)、防災(公園の多面的機能)③経済：公園にあるカフェ・物販等による収益向上	
12	公園・低未利用地	イケサンパーク (東京都豊島区)	<ul style="list-style-type: none">造幣局跡地にて防災拠点と兼ねた公園を創出するため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">区内最大の芝生広場や、「こもれびの森」という防火樹林帯を設置 (ハード)歴史を継承する施設跡のモニュメント化 (ハード)利用者参加型コミュニティガーデン活動 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着：防災(防火樹林の整備、雨水貯留浸透機能の向上)、地域コミュニティ活性化(地域住民の憩いの場の創出)③経済：来訪者の半数は区外であり、域外からの来訪が増加	
13	公園・低未利用地	花園公園のレイズドベッド設置 (千葉県千葉市)	<ul style="list-style-type: none">不法投棄等を防止し、公園の適切な利用を推進するため以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">レイズドベッドを設置 (ハード)レイズドベッダーの植栽を自由に利用可能とし利用を促進 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着：地域コミュニティ活性化(維持管理を通じた交流創出)、教育(環境教育の場としての活用)③経済：(不明)	
14	公園・低未利用地	カナドコロ(神奈川県川崎市)	<ul style="list-style-type: none">30年間空地状態となっており、ゴミの不法投棄や景観の悪化等の影響が発生している土地を整備・活用するため以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">川崎市産の樹皮をマルチングとして再利用 (ハード)擁壁沿いにドライスウェルを整備 (ハード)菜園・レイズドベッダーを整備し花植え等をワークショップとして近隣住民と共同で実施 (ハード、ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着：防災(マルチングにより保水機能1.7倍向上)、地域コミュニティ活性化(ワークショップへの地域住民の参加)、教育(環境教育の場としての活用)③経済：カナドコロマーケットの開催による賑わい・収益創出	
15	公園・低未利用地	大宮交通公園 (京都府京都市)	<ul style="list-style-type: none">交通公園の老朽化に対応する整備に伴い以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">縦穴処置により土を柔らかくし、空気や水の浸透性増加 (ハード)既存の豊かな緑や歴史的な価値のある施設の保存 (ハード)自然再生に関するワークショップを実施 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着：防災(雨水貯留浸透機能)、環境緩和(炭素固定、大気汚染除去)、教育(交通教育の継続的な実施)③経済：資源循環を意識したカフェ等による収益増加	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
16	公園・低 未利用 地	子育て共助の まちづくり事業 (富山県 舟橋村)	<ul style="list-style-type: none">村では地域交流の希薄化、人口構成割合の偏り等を問題視。公園を中心に、「子育て共助のまちづくり」として以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">公園の整備・維持管理（インフラ）子どもたちが公園整備の企画・資金調達・運営管理を担う「子ども公園部長」の創設、実際に企画運営を行うWS（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 ：教育（子どもたちにて公園企画・運営経験、主体的公園メンテナ ス）、地域コミュニティ活性化（ママたちが公園イベント企画・チラシ作り に参画）、防災等（公園の多面的機能）③経済：公園イベントに年3000人参加。初年度から約1.5倍増	
17	里山	産官学民連携 による印旛沼 の保全と活用 (千葉県)	<ul style="list-style-type: none">谷津の荒廃を食い止め、印旛沼の水質浄化を目指し以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">産学官民連携したコアメンバーによる湿地整備（ハード）ボランティア受入れや地元の児童向けWSの実施（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 ：防災（遊水地）、地域コミュニティ活性化（維持管理を通じた交流 創出）、教育（子供たちへの環境教育）、生物多様性（希少種）③経済：地域イベントに伴う出店等の収益増加	
18	里山	たがみバンブー ブー（新潟県 田上町）	<ul style="list-style-type: none">放置竹林の解消を狙い、竹林を有効活用するため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">放置竹林の伐採・整備（ハード）竹あかりのアート作品を活用した祭の開催（ソフト）地元小中学校を巻き込んだ祭のコンテンツ企画運営（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：教育（中学校の授業を利用した祭の企画）、地域コミュニティ活 性化（製作等に1千人以上関与）、観光振興、水源涵養等（森林）④愛着：地元住民が主体・一体となった祭の創出、地域シンボル化	
19	里山	せどやま再生 事業（広島県 北広島町）	<ul style="list-style-type: none">地域において放棄されている里山の維持再生のため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">里山の適切な伐採（自伐型林業）（ハード）里山付近の温浴宿泊施設への薪ボイラーの導入（ハード）里山維持管理活動（木材の運び出し等）に参加した住民へ地域 通貨を発行（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 ：地域コミュニティ活性化（里山の森林伐採や地域通貨使用時の参 加住民の交流促進）、環境緩和（バイオマス活用によるGHG抑制）③経済： ・地域通貨発行による域内経済循環。薪ボイラー導入でコスト削減	
20	農地	コウノトリ育む 農法（兵庫県 豊岡市）	<ul style="list-style-type: none">地域一体となったコウノトリ保護の意識をきっかけに、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">休耕田におけるコウノトリの生息地となる湿地等設置（ハード）コウノトリ育む農法（早期湛水等）の実施（ハード）コウノトリをテーマとしたツーリズムの開催（ソフト）コウノトリの観察含む環境教育（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：農業振興（「コウノトリ育むお米」の単価向上）、観光振興（コウノ トリをテーマとしたツアー）、教育（コウノトリの観察等）、生物多様性・防 災等（農地の多面的機能）④愛着：GIを通して保護するコウノトリという地域のシンボルの創出	
21	農地	積丹の「スピ リッツ開発」 (北海道積丹 町)	<ul style="list-style-type: none">未利用となっている町有農地を活用するため、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">未利用農地におけるボタニカル等の試験栽培（インフラ）ジンにあう料理としてのマリアージュ（食べ合わせ）の試作品の創作、 地元の製造業者による商品化（ソフト）	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：農業振興（クラフトジンによる特産品の収益）、観光振興（グリーン ツーリズム等による観光客増）、防災等（農地の多面的機能）④愛着：ユニークな特産品に事業者・住民が参入、一体で産業振興	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
22	農地	多様な農地利用 (富山県立山町)	<ul style="list-style-type: none">農家の減少等の危機感を背景に、多くの農地等で以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">荒廃農地の放牧・蜜源作物等による粗放的管理 (ハード)遊休農地を活用した市民農園の開設。農泊活用 (ハード)旧農協倉庫を改装した拠点施設の開設。カフェの運営やイベント等を企画し、人を呼び込む取組を実施 (ハード)	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：農業振興 (市民農園で収穫した野菜を近隣の拠点施設等で販売)、地域コミュニティ活性化 (住民が交流を深めながら農作業できる市民農園)、防災等 (農地の多面的機能)④愛着：住民が交流を深めながら農作業・農体験できる機会創出	
23	農地	地下水の保全 (熊本県熊本市)	<ul style="list-style-type: none">熊本市内の地下水量減少に対して、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">転作田に湛水した農家に協力金を助成、湛水推進 (ハード)田植えや稲刈りを体験できるイベントの実施 (ソフト)地下水を育む農作物を「水の恵み」商品とブランド化。米の購入者を地下水かん養と認めるオフセット事業の実施 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：農業振興 (企業・大学による涵養米の購入)、教育・地域コミュニティ (イベント「田んぼの学校」を通じた上下流の小学生の交流)、防災等 (農地の多面的機能)④愛着：住民が交流を深めながら農作業体験できる機会創出	
24	沿岸部	干潟保全 (佐賀県鹿島市)	<ul style="list-style-type: none">有明海干潟の荒廃に対して、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">干潟の上流部にある棚田・耕作放棄地の保全 (ハード)棚田や水田の米を活用した日本酒製造 (ソフト)地元住民参加型の干潟生物等調査・観察 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：農業振興 (日本酒の販売収益)、教育 (住民参加型の生き物調査等)、地域コミュニティ (親子参加の干潟体験イベント)、防災 (レインガーデンの雨水貯留機能)④愛着：地域住民と干潟の接点 (イベント) の創出	
25	河川	上西郷川における多自然川づくり (福岡県福津市)	<ul style="list-style-type: none">汚濁負荷の高い河川を、次世代への継承の観点から環境再生するため、以下の取組を実施<ul style="list-style-type: none">上西郷川整備に関するワークショップに参加、検討結果を活かし実際に整備を実施 (ソフト)多自然川づくりの概念を用いた河川整備 (ハード)小学校における上西郷川に関する環境学習を実施 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能 ：生物多様性向上 (生息する生き物の種数の増加)、地域コミュニティ活性化 (維持管理活動等を通じた地域住民の交流の場創出)、防災 (川幅拡張による水害防止機能)③経済：周辺の地価向上④愛着：児童による上西郷川への「愛着」の増加を確認	
26	河川	円山川流域 (兵庫県豊岡市等)	<ul style="list-style-type: none">河川整備による氾濫原湿地の減少に対して、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">湿地環境 (加陽湿地) の再生・創出 (ハード)湿地と隣接した交流館や多目的広場の整備 (ハード)小学生の環境教育を兼ねた外来生物の駆除 (ソフト)「加陽湿地まつり」の開催・湿地のパネル展示等 (ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 ：教育 (住民参加型の生き物調査等)、地域コミュニティ (まつりへの住民参加・交流 (約600名)) 生物多様性 (希少生物の保全)、防災 (湿地としての浸水被害の緩和)③経済：円山川に係る全体事業のB/Cは1.1と算定	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組

#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)
27	河川	草津川跡地整備 (滋賀県)	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修に伴いできた河川跡地を未来につなげるため以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> 湘南農業高校やガーデニングサークルと連携し公園の施工を実施 (ハード) 都市利便推進協定等も活用し、民間事業者の参入を促進するエリアを設定 (ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ②機能・④愛着：地域コミュニティ活性化 (公園を利用した民間主体の様々なイベントが開催)、教育 (地元高校との連携) ③経済：複数事業者が民間活動エリアに参入、収益を創出
28	河川	堀川の再生 (愛知県名古屋市)	<ul style="list-style-type: none"> 多発する豪雨災害に対し、堀川の治水整備と合わせて以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> 上流の瀬淵設置等による河川の水質浄化 (ハード) 「堀川1000人調査隊」(市民目線の水質調査、インターネットを通じて報告)の実施 (ソフト) 親水広場等で川沿いに花を飾るイベント等に活用 (ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ②機能・③経済：地域コミュニティ活性化 (各種イベントへの住民参加)、教育 (小学生を対象とした生物観察会等)、防災等 (河川の治水機能向上) ④愛着：住民が自ら水質調査・報告することで河川との接点創出
29	遊水地・湿地	麻畠遊水地 (静岡県静岡市)	<ul style="list-style-type: none"> 水害防止機能に加え、人と自然の関わりも創出するため以下取組実施 <ul style="list-style-type: none"> 市民による「湿地づくり」を実施 (ハード) 子供等を対象にした環境学習プログラムの実践 (ソフト) 伝統的な漁法のイベントとしての実施 (ソフト) 高齢者・障害者等も参加できるイベントの開催 (ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ②機能・④愛着：防災 (遊水地としての浸水被害の緩和)、地域コミュニティ活性化 (維持管理を通じた交流創出)、教育 (環境教育への子供たちの積極的な参加)、生物多様性 (希少種保全) ③経済：地域イベントに伴う出店等の収益増加
30	遊水地・湿地	渡良瀬遊水地 (栃木県等)	<ul style="list-style-type: none"> 渡良瀬遊水地の多様な生物と自然の保全のため以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> 治水を兼ねた遊水池の掘削・整備 (ハード) コウノトリ等の採餌環境を確保する植生管理イベント (ソフト) 市民と共同の田んぼの生きもの調査の実施 (ソフト) 遊水池におけるアクティビティ (サーフィン等) の開催 (ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ②機能・③経済：観光振興 (遊水池を活用したアクティビティ)、教育 (住民参加型の生き物調査等)、生物多様性 (コウノトリ保全)、防災 (遊水地としての浸水被害の緩和) ④愛着：生き物調査や植生管理への住民参加イベント化
31	遊水地・湿地	鶴見川多目的遊水地 (神奈川県横浜市)	<ul style="list-style-type: none"> 都市化に伴う浸透機能低下に対して、鶴見川遊水池で以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> 遊水池の整備 (ハード) 遊水地を詳しく紹介する「鶴見川流域センター」設立 (ハード) 市民参加型の環境教育 (田植イベント等) (ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ②機能・③経済：観光振興 (遊水池の利用者増)、教育 (住民参加型の生き物調査等)、生物多様性 (遊水地の生き物)、防災 (遊水地としての浸水被害の緩和) ④愛着：生き物調査や植生管理への住民参加イベント化

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
32	住宅地・商業地	Green Bind : コンフォール松原・松原団地記念公園 (埼玉県草加市)	<ul style="list-style-type: none">良好な住環境を目指すため、住宅建て替えに併せ以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】クラインガルテン (貸し農園) と一体となったプレイロット【ハード】ランドスケープの再生と継承 (シダレザクラ移植等)【ハード】流出抑制機能を持った自然度の高い修景池を公園内に設置【ソフト】公園やオープンスペースにおける多世代新旧住民の交流	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 : 防災 (雨水貯留浸透)、地域コミュニティ活性化 (緑地における地域住民の交流機会創出)、NP (在来種の生息地確保)③経済 : 夏祭り等のイベントで収益発生	
33	住宅地・商業地	ブランチ茅ヶ崎 (神奈川県茅ヶ崎市)	<ul style="list-style-type: none">団地建替えに伴い、生活・防災拠点の創出を目指し以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】植栽と壁面緑化による松尾川緑道の景観との調和【ハード】大規模団地の各棟に雨水貯留浸透槽の設置【ソフト】防災イベントの実施 (電ベンチや井戸トイレの設置体験)【ソフト】イベント広場を利用したマルシェや夏祭りの実施	<ul style="list-style-type: none">②機能・③経済 : 防災 (雨水貯留浸透機能、防災公園へのスムーズな避難)、賑わい (商業施設への来訪者増加)④愛着 : 地元自治会・NPOとUR都市機構・茅ヶ崎市が街の在り方について定期的に情報交換	
34	公園・低未利用地	歴史・文化と豊かな自然を感じる空間創出プロジェクト (三重県津市)	<ul style="list-style-type: none">歴史的価値の高い土地の寄付を受け、その活用のため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】公園における生物生息地の確保による、環境学習の場創出【ソフト】文化財や博物館を活用したイベントの開催	<ul style="list-style-type: none">②機能、③経済 : NP (渡り鳥等、水辺を活用した生き物の保全)、観光 (文化財を核とし、周辺の緑地を含めた観光地の創出)④愛着 : 地元の小学校や自治会連合会から整備内容について利用者目線の意見を聴取し事業内容への反映に取り組む	
35	公園・低未利用地	鶴見緑地指定管理事業 (大阪府守口市、大阪市鶴見区)	<ul style="list-style-type: none">園産園消をテーマに自然と人が共生する公園を形成するため以下取組実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】新植樹木のサクラ約 50 本の生育と大芝生の再生【ハード】水はけが悪い土壌を園内の乗馬苑で発生する馬糞から作った堆肥を利用し改善【ハード】すべての子どもが同じ場所で遊ぶことのできるインクルーシブな遊具広場の提供【ソフト】子ども食堂利用者を対象とした収穫体験等の環境学習の場の提供	<ul style="list-style-type: none">②機能・④愛着 : 景観 (シンボルとしての大芝生の再生)、賑わい創出 (高齢者～子供の世代間交流の機会を提供)、教育・福祉 (養護学校や障がい者自立支援団体がインクルーシブ遊具広場を校外学習の場として利用)③経済 : 園内での養蜂事業から取れる蜜蝋や近隣からもらった米ぬかを混ぜるなどの循環型経済の体験	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

デスクトップ調査結果					(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組
#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)	
36	公園・低未利用地	中間支援組織が活躍する公園 (東京都西東京市)	<ul style="list-style-type: none">公園空間の効率的なエリマネによる地域活性化のため、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ソフト】自動販売機や物品販売による販売収益等【ソフト】小規模公園の活用の仕方を考える「市民ワークショップ」を開催【ハード】(花壇活動団体が市や指定管理者と連携して) 小さな公園をまるごとハーブガーデンにする取組【ソフト】指定管理者の自主事業収益を向上させ、経営の安定化や公園への収益の還元を促すための仕組み作りや支援・指導等実施	<ul style="list-style-type: none">②機能、④愛着 ：地域コミュニティ活性化(様々なイベントを通じた地域住民・観光客等の交流促進)、公園の多面的機能(防災等)③経済：自主事業収益は初年度と比較し3割増	
37	公園・低未利用地	管理運営の試行をリニューアルに反映(兵庫県神戸市)	<ul style="list-style-type: none">利用の少ない公園を活性化するため、以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】東遊園地への芝生の設置【ハード】事業者の活動拠点・収入源となる拠点施設をPark-PFI制度を用いて設置し、公園再整備を進めた【ソフト】社会実験(URBAN PICNIC)として、様々なにぎわい創出事業を実施(ソフト)	<ul style="list-style-type: none">②機能、④愛着 ：憩い・ウェルビーイング(東遊園地が都市の中でくつろぎ、自然を体感できる貴重な空間として機能)、公園の多面的機能(防災等)③経済：社会実験URBAN PICNICの開催により、公園の滞留者数は通常の二倍になった	
38	沿岸部	ブルーカーボン創出プロジェクト(神奈川県横浜市)	<ul style="list-style-type: none">ブルーカーボン創出を兼ねた環境保全・環境学習のため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】護岸壁面上にワカメの種糸を巻き付けたロープを取り付け栽培【ソフト】ワカメの種付け体験や収穫・食育を通じた環境教育の実施	<ul style="list-style-type: none">②機能、④愛着 ：環境(二酸化炭素吸収量の増加)、教育(ワカメを活用した食育・収穫体験等多様な教育機会の提供)③経済：ブルーカーボンの創出・販売による収益	
39	里山	森林資源を活かした地域活力の再生と山村地域の防災面の強化(和歌山県)	<ul style="list-style-type: none">防災機能を強化しつつ、地域林業を振興するため以下取組を実施<ul style="list-style-type: none">【ハード】適正な森林管理に資する林道・治山施設等整備【ソフト】適正な森林管理を行うための森林資源情報の解析【ソフト】航空レーザー計測データを用いた森林資源情報の解析【ソフト】新規林業就業者の確保	<ul style="list-style-type: none">②機能、③経済 ：防災(森林の適切な手入れ、避難道路の確保を実施)、産業振興(木材加工業の振興)④愛着：住民の意見を収集・反映し、地域全体が連携しながら持続的な発展を目指す	

■ ガイドラインが目指す姿に適合する事例として、合計42事例を抽出した

(凡例) 赤色：大規模な取組、黄色：小規模な取組

#	分類	取組名 (地域)	背景・取組概要	目指す姿との適合する点 (②分野横断的機能、③経済効果、④愛着・参入)
40	河川	淀川管内河川 レンジャーのグ リーンインフラ の取り組み (淀川流域)	▶ 淀川水系の自然環境改善のため以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【ハード・ソフト】地域の中学校・NPO団体等と連携して、ヒメボタルの生息に適する環境創出のための竹林伐採、観察道の造成等を実施し、ヒメボタルの観察会を実現 ▶ 【ソフト】淀川水系の各所を河川管理者とともに現地確認・調査するなどの活動を実施 	▶ ②効果、③経済 : NP（外来種防除によるホタル等在来種の生息環境確保）、 安全 （ホタルの観察道造成による、竹林の安全性向上）、 賑わい創出 （レンジャー活動、ワークショップなどによる人々の交流機会増加） ▶ ④愛着 ：個々のレンジャー活動やワークショップを通して、住民のニーズ・課題をくみ上げ、行政や自治会・地域団体と共有して、検討を継続的に実施
41	住宅地・ 商業地	水門川を導線 としたウォーカ ブルシティとし ての賑わいの 場の創出（岐 阜県大垣市）	▶ 地域に多く存在する湧水を活かした地域活性化を狙い以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【ハード】清水町緑地における井戸の整備 ▶ 【ハード】周囲の緑と親和性のあるテラス席を設置 ▶ 【ハード】大門川に沿う「四季の路」の歩道修景や緑地整備 ▶ 【ハード】水辺空間に広場の整備、かわまちテラス等のイベント等に活用河川における船下り事業の実施 ▶ 【ハード】駅南口に整備するデジタルサイネージ、インターネット上のデジタルガイドマップ、まちなかの案内サインを連携、まちあるきをを促進 ▶ 【ソフト】良質な湧き水が噴出する井戸をまとめたポータルサイトの開設 	▶ ②効果、④愛着 ：地域コミュニティ活性化（イベント等への住民の積極的参加）、 水資源保全 （湧水の活用や教育活動による、湧水の重要性の意識向上）、 癒し・ウェルビーイング （緑と水の快適な空間を創出） ▶ ③経済 ：かわまちテラスにおける出店・キッチンカー等による収益の向上
42	遊水地・ 湿地	アザメの瀬	▶ 水害被害改善のため、遊水地的な湿地を形成するべく以下取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【ハード】地盤を下げ、冠水頻度の高い湿地環境を形成 ▶ 【ハード】水害防備林を兼ねた河畔林を形成 ▶ 【ソフト】地域の自然愛護活動、環境調査イベント等を実施 	▶ ②機能、④愛着 : NP（湿地環境の再現による、湿地特有の生態系の復元）、 教育 （自然環境調査等、環境教育の機会創出） ▶ ③経済 ：来訪者数の増加（500～600人程度）

参考-5.現時点の検討状況_デスクトップ調査

■ GI事業の起点となった政策課題ごとに事例を再整理し、合計16の取組を取りまとめた

政策課題		担当部局 例	事例	取組手法		
主課題	副次的課題			#	取組手法概要	
大規模な取組	道路・跡地活用等の都市計画	コミュニティ・にぎわい、教育、生物多様性、回遊性等	企画課 都市計画課 建設課 公園課	#5札幌大通公園（北海道札幌市）	1	道路と公園を一体的に整備・緑化しつつオープンスペースを創出することで、「地域の道路・広場」をつくる取組
				#10小田急線上部利用施設（東京都世田谷区）	2	線路跡地等の大規模空間における緑と賑わい空間（商店街等）を一体的に整備し「地域の街並み」をつくる取組
	にぎわい創出・産業振興	コミュニティ、教育、道路整備、生物多様性、回遊性等	企画課 産業振興課	#1にぎわいの森（いなべ市）、#2ランチ神戸学園都市（兵庫県神戸市）、ほか#3、32、33、41	3	周辺の自然資本と商業施設・空間を一体的に再生・整備し「地域の商業空間」をつくる取組
				#24干潟保全（佐賀県鹿島市）	4	干潟と上流部（農地等）を一体的に保全し干潟を中心に賑わい空間を創出し「地域の干潟をつくる取組
	地域環境・生態系保全	コミュニティ・にぎわい、教育、産業、等	企画課 環境推進・自然共生課	#17印旛沼の保全と活用（千葉県）	5	湿地・里山等周辺の自然環境を地域住民一体となって維持・再生し「地域の里山」をつくる取組
				#20コウノトリ農法（兵庫県豊岡）	6	地域の生きもの等を「シンボル種」として生息環境を保全・再生し産業価値も高め「地域の生きものと農業」をつくる取組
	水害防止	コミュニティ・にぎわい、教育、生物多様性、等	企画課 建設課 河川課	#25上西郷川（福岡県福津市）、 #26円山川（兵庫県豊岡市）ほか#27	7	地域住民と一体となって河川の生態系・湿地環境等を保全・再生し「地域の川と自然」をつくる取組
				#29麻島遊水地（静岡県）、 #30渡良瀬遊水地（栃木県等）、ほか#31	8	遊水地・湿地の自然環境保全・再生と賑わい空間を一体的に整備し「地域の遊水地」をつくる取組
小規模な取組	道路・跡地活用等	コミュニティ・にぎわい、教育、生物多様性、回遊性等	都市計画課 建設課 公園課	#6おおはしりの森（東京都目黒区）、 #7高山ICビオトープ（岐阜県）、ほか#8、9	9	道路整備・維持管理（従来政策）に併せて緑化等で空間価値を高め「地域の道路」をつくる取組
				#11安満遺跡公園（大阪府高槻市）、ほか #12～16、34、35～37	10	公園・空き地・施設跡地等の整備（従来政策）に併せて緑化等で空間価値を高め「地域の公園・広場」をつくる取組
	公共施設の改修	コミュニティ・にぎわい、教育等	生活環境課	#4武蔵野グリーンセンター（東京都武蔵野市）	11	公共施設の改修（従来政策）に併せて緑化等を施し「地域の公共施設」をつくる取組
	管理不全の農地・森林等の維持管理	コミュニティ・にぎわい、教育、生物多様性、産業等	農林課	#18たがみバンブー（新潟県田上町）、#19せどやま再生事業（広島県北広島町）ほか#39	12	管理不全の森林・竹林の整備・伐採（従来政策）に併せて観光資源化・賑わい空間を創出し「地域の森林・竹林」をつくる取組
				#21積丹の「スピリッツ開発」（北海道積丹町）、 #22農地利用（富山県立山町）、ほか#23	13	未利用の農地・耕作放棄地の維持・再生（従来政策）に併せて観光資源・賑わい空間を創出し「地域の農地」をつくる取組
	地域環境・生態系保全	コミュニティ・にぎわい、教育、産業等	河川課 環境推進課 港湾課	#28堀川の再生（愛知県名古屋市）、#40淀川管内河川レンジャー（淀川流域）	14	河川の水質改善（従来政策）に併せて住民主体の水質モニタリング・緑化等によって「地域の川」をつくる取組
				#42アザメの瀬自然再生事業（佐賀県）	15	湿地環境創出・改善（従来政策）に併せて子供の環境学習の場も創出する「地域の湿地」をつくる取組
				#38港湾施設におけるブルーカーボン創出（神奈川県横浜市）	16	港湾の自然環境改善（従来政策）に併せて環境教育・賑わいの場を創出する「地域の港湾」をつくる取組

参考-5.現時点の検討状況_ヒアリング(考え方)

①モデルと
なりうる自治体②GIに慣れて
いない自治体

- 第一回検討会前に、ガイドラインが目指す姿を実現するモデル（となりうる）自治体に、その成功のポイントや課題をヒアリング。取組のポイントの内容高度化に活用する
- ガイドラインの方向性が一定みえる第二回検討会前に、内容が自治体のGIの取組を促進できるかについてもヒアリングを行う

ヒアリングの考え方

ヒアリング の考え方	対象	①ガイドラインが目指す姿を実現する モデル（となりうる）自治体	②GIに慣れていない、 取組途上の自治体
	明らかに したい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿を実現するポイントは何か（設定した仮説は妥当か） ・ 上記ポイントを達成する秘訣/課題は何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GIの事業化に至らないボトルネックは何か ・ 作成中のガイドラインは、上記ボトルネックを解消するか（どうすればボトルネックを解消できるか）
ヒアリング対象 自治体	タイミング	<p>第一回検討会前</p>	<p>第二回検討会前</p>
		<p>大規模な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三重県いなべ市 ・ 東京都世田谷区 <p>小規模な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都豊島区 ・ 愛知県名古屋市 <p>ヒアリング済</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県 ・ 青森県青森市 ・ 大阪府堺市 ・ 大阪府泉大津市（都市政策部）

参考-5.現時点の検討状況_ヒアリング(対象者)

①モデルと
なりうる自治体②GIに慣れて
いない自治体

- 「目指す姿を実現するポイント」(仮説)を達成しており、規模・エリアの観点で偏りがないようにヒアリング対象候補を抽出
- 三重県いなべ市、東京都世田谷区、東京都豊島区、愛知県名古屋市を選定した

ヒアリング対象自治体の抽出基準

要素1

「目指す姿を実現するポイント」(仮説)を達成している(と想定される)

- Point ② 住民・民間が"検討主体"として参画する仕組みができている(「主体的に関わり続けたい」を醸成している)
- Point ③ 関連部局で"連携"し、取組が推進される
- Point ④ "住民・民間のノウハウ・アイデア"が最大限引き出されている(効果的な官民推進体制が構築されている)
- Point ⑦ 取組に住民・民間が参加するのみならず、"継続的かつ自発的取組として定着"する(愛着・参画を生む)

※ ① ⑤ ⑥ ⑧ はデスクトップ調査から確認できないため対象外

要素2

対象自治体全体で、以下観点到に偏りが無い

- 規模：大規模/小規模
- エリア：都市部/郊外/農山漁村

該当地域をデスクトップ調査で抽出した自治体から選定

ヒアリング対象候補地域

ヒアリング済。以後取り纏め

大規模

小規模

1.【都市部:市街地】三重県いなべ市 (にぎわいの森)

- ② ④ 一般社団法人グリーンクリエイティブいなべがにぎわいの森の運営、管理を実施
- ③ 自治体内で「いなべ市グリーンインフラ推進本部」を設置
- ⑦ 継続的にGIに関連するWSを行う等、住民の自発的取組を促す取組を実施

2.【郊外:低未利用地】東京都世田谷区 (小田急線上部利用)

- ② 「上部利用デザインワークショップ」等にて住民とともに基本計画・実行計画を策定
- ③ 多分野にわたる取組を実施(【地域コミュニティ】住民主体で緑化を実施、【経済】商店の街並みを整備・賑わいを創出)
- ④ ⑦ 「PR戦略会議」等にて住民・民間の活動部会を組成。シモキタ園芸部等を創出し、住民主体の取組を継続

3.【郊外部:公園】東京都豊島区 (IKE・SUNPARK) ※書面にて実施

- ② 区民ワークショップを実施し公園プラン(必要な機能等)を策定
- ③ 多分野にわたる取組を実施(【防災】防火樹林の整備、雨水貯留機能の向上、【地域コミュニティ】区内最大の芝生広場)
- ④ 豊島区とURが共同し、Park-PFI制度にて設計、管理運営事業者等を公募
- ⑦ 『イケサン倶楽部 ボランティアの会』を発足

4.【農山漁村部:河川】愛知県名古屋市 (名古屋の母なる川・堀川の再生)

- ② ④ 民産学官の団体からなる「堀川まちづくりの会」を2013年に設置計画
- ③ 多分野にわたる取組を実施(【賑わい】堀川フラワーフェスティバル、【防災・生物多様性】治水整備と河川浄化【地域コミュニティ】河川を活用したイベントを実施)
- ⑦ 「堀川1000人調査隊」による市民を巻き込んだ水質調査